

「あげる - くれる - もらう」の誤用分析

Analisis Kesalahan “a g e r u - k u r e r u - m o r a u”

Yamamoto Akihiko
(Ekspert The Japan Foundation untuk Wilayah Jawa Barat)

Uning Kuraesin (Universitas Widyatama)

Novitasari (Universitas Nasional Pasim)

Soni Mulyawan S(Universitas Komputer Indonesia)

Melinda Dirgandini (Universitas Kristien Maranatha)

Ogasawara Daigo (STBA-YAPARI Aba Bandung)

Noviyanti Aneros (Universitas Pendidikan Indonesia)

Otsuka Hiroko (Universitas Padjadjaran)

要旨

日本語の授受表現について、バンドン地域の大学生の誤用、習得の状況を調査した。その結果、3年生から4年生にかけて、特に習得がすすんでいないことがわかった。また、3年生は基本的な文型ができて、コンテキストが複雑になるとできず、逆に4年生は基本的な文型を忘れてはいるが、3年生よりもコンテキストを読みとることができた。多くの学生の場合、文型的なマーカーによって「あげる」「くれる」「もらう」を判断しているのではなく、感覚的に選んでいるケースが目立った。全体的に「あげる」の

過剰使用と見られる誤用、親疎関係の判断ミスによる誤用が特に多く見られた。

1. はじめに

日本語学習者にとって、習得の難しい学習項目のひとつに、いわゆる授受表現があげられる。その困難の原因のひとつに、多くの外国語が「与え手→受け手」、「受け手→与え手」の2項¹であるのに対し、日本語は「あげる - くれる - もらう」の3項を使い分けることにある。さらに日本語には相手によって言葉を使い分ける「待遇表現」があるため、「さしあげる、やる、いただく、くださる」といった表現を学ぶ必要もある。

これらの授受表現は多くの教科書では初級でとりあげられており、「あげる - もらう」の導入、「くれる」の導入、待遇表現の導入、と段階を踏んで導入されるが、多くの学習者が中上級になっても、適切な使用ができないケースが数多く見られる。そこで、本研究では、学習者にとってどのようなタイプの誤用が多いかを明らかにすることによって、教師が導入、トレーニングを行う際の指導のポイントを見出すことを目的とした。また、バンドン地域で日本語を主専攻とする7大学²において、誤用傾向を探り、各大学の弱点の分析を行った。これをきっかけに、各大学の日本語能力の底上げがなされることを期待する。

なお、本研究でとりあげる授受表現については、初級レベルに必要な表現にしぼり、

¹ インドネシア語でも *memberi*、*menerima* の2項。

² Universitas Widyatama, Universitas Nasional Pasim, Universitas Komputer Indonesia, Universitas Kristien Maranatha, STBA-YAPARI ABA Bandung, Universitas Pendidikan Indonesia, Universitas Padjadjaran

中上級で扱われる内容は対象外とした。

2. 先行研究

授受表現についての研究としては、台湾人学習者を対象とした中国語母語話者の誤用について述べた平野(2003)、韓国人学習者を対象とした稲熊(2004)などがあるが、インドネシア人学習者を対象にした誤用および習得研究はまだ行われていないようである。

3. 仮説

先行研究と報告者らの経験から、以下の仮説をたてた。

仮説1 対象格は二格以外は未定着である。

対象格には一般的には二格が使用されるが、その他以下のような格がある。

(カラ格) 私は日本の友達から日本語の本を送ってもらいました。

(ヲ格) 私は友達を駅まで送ってあげました。

(ノ格) 私は友達の宿題を手伝ってあげました。

(ト格) 私は友達の子供と遊んであげました。

(タメ二格) 私は友達のためにセーターをあんてあげました。

二格については教科書できちんととりあげられているが、その他の格については大き

く取り上げられていない³ため、定着が進んでいない可能性がある。

仮説2 「～てあげる」の過剰使用の可能性はある。

目上の人に対しては「～てあげる」をつかうとおしつけがましい印象になる。ふつうは謙譲語を使う。

(×) かばんを持ってあげましょうか。

(○) かばんをお持ちしましょうか。

このような説明が教科書ではとりあげられていない場合が多く、目上の人に「あげる」を使ってしまう可能性が高い。

仮説3 ウチとソトの概念が未定着である。

自分側に属するグループには「あげる」ではなく「くれる」を用いる。

(花子 = 家族) 田中さんは花子に本をくれた。

(花子 = 友人) 田中さんは花子に本をあげた。

親疎関係もウチとソトに絡んでいる。

デウィさんは二ナさんに本をあげた。(デウィさんと二ナさんは同じぐらいの親しさ)

デウィさんは二ナさんに本をくれた。(デウィさんより二ナさんのほうが近い関係)

「あげる」と「くれる」の人間関係の距離感を理解していない可能性が考えられる。

³ 例えばスリーエーネットワーク「みんなの日本語」では41課・練習A5, 6で「ヲ格」「ノ格」がとりあげられているが、特にその区別についての練習は本冊にはない。

仮説 4 授受表現の欠落の可能性がある。

恩恵の気持ちがある場合は、必ず授受表現を使う。

田中さんは私の仕事を手伝った。(特に恩恵の気持ちがなく、事実の描写のみ)

田中さんは私の仕事を手伝ってくれた。(感謝の気持ちがある)

特に、目上の人に使う場合、尊敬語を使うことに意識が集中してしまい、授受表現が落ちてしまう可能性が高い。

(×) 先生は私に辞書をお貸しになった。

(○) 先生は私に辞書を貸してくださった。

4 . 調査方法

4 . 1 テストの作成

本調査では仮説をもとに授受表現を用いた選択式テスト問題を 36 題作成した。問題文は平野 (2003) をもとに、独自に作成した問題を加えた。問題文には漢字が読めないことが原因で誤用となるケースを避けるべく、ふりがなをつけた。解答用紙にはインドネシア語で本テストの主旨を説明し、回答者の属性 (大学名、Semster、性別、日本語能力試験の有無) を記入してもらった。また、解答用紙にはもつとも適当と思われる答えのみを記入してもらった。

テストに用いられたカテゴリーは

①仮説 1 検証用 8 問

②仮説 2 検証用 4 問

③仮説 3 検証用 4 問

④仮説 4 検証用 8 問

⑤その他 12 問

とした。その他の問題を入れた意図は、仮説以外の要因が何らかの形で見える可能性をとりこぼさないようにである。

4.2 調査時期および調査対象者

2009 年 11 月末から、12 月上旬にかけて、各大学でテストを行った。有効回答率は 100%であった。調査対象者の内訳は Table 1 の通りである。

Table 1 調査協力者の概要

	人数	Sem5	Sem7	男	女	1級	2級	3級	4級	未合格	未受験
Widyatama	6	6	-	2	4	-	-	2	2	2	0
Pasim	11	8	3	6	5	-	-	1	6	2	2
UNIKOM	21	9	12	10	11	-	1	10	4	6	0
UKM	54	21	33	17	37	-	-	22	8	7	17
STBA-YAPARI	74	35	39	30	44	-	1	20	31	5	17
UPI	56	34	22	14	42	-	-	40	6	9	1

UNPAD	60	27	33	9	51	1	-	30	14	13	2
計	282	140	142	88	194	1	2	125	71	44	39

5 . 結果および分析

5 . 1 全体の結果

Table 2 全体の結果

問題	正解	正答率 (%)
22B	ラニの誕生日にドニ君は何も買ってくれなかったんでしょ？	18.1
21	忙しそうですね。手伝いましょうか。	22.3
24	はい、先生。私が読みます。	30.1
10	妻はわたしが誕生日に買ってあげたスカートをはいています。	30.5
25C	きのうの手紙、もう読んでいただけましたか。	31.9
27C	ラニさん、お兄ちゃん、送ってくれるって。	31.9
5	友達に宿題を手伝ってもらわないでください。	34.4
26	道を歩いている人に聞いたら、とても親切に教えてくださいましたから。	39.0
1	寝る前にいつもむすめに本を読んでやります。	39.7
18	私も駅まで行きますので、一緒に行きましょう。	42.2
9	先生がくださった辞書はたいへん使いやすいです。	43.3
27A	もう遅いから、お兄ちゃんに送ってもらったら？	45.4
22A	デウィさんは誕生日にドニ君にくつを買ってもらったそうよ。	46.5
25B	明日、取りに来てもいいですか。	48.6
25A	友人に日本語で手紙を書いたんですが、ちょっと直してもらえませんか。	51.1
6	熱があったので、医者にみてもらいました。	51.4
23C	先生が紹介してくださった人に会いました。	51.4
27B	お兄ちゃん、ラニさんをバイクで駅まで送ってあげて。	52.1
16	明日ドニさんが私の車を直してくれます。	52.5
23B	先生、もう連絡していただけましたか。	54.6
28B	じゃ、このボタンの使い方を教えてくれない？	56.0
4	田中さんは私の恋人に日本の雑誌を送ってくれました。	56.4
15	これはきのう友達から貸してもらった本です。	56.7
20	二ナさんを連れて行ってあげたんです。	56.7
13	これはドニさんが弟にくれた本です。	57.8
11	田中さんは私に映画の切符をくださいました。	59.9
14	田中さんが私の誕生日に買ってくれたくつはこれです。	59.9
28A	使い方がわからなかったら、教えてあげるよ。	61.0

8	先生にいただいた辞書はたいへん使いやすいです。	64.5
3	ドニさんは私をジョグジャカルタへ連れて行ってくれました。	66.0
12	あなたが送ってくれたりんご、とてもおいしかったです。	66.0
2	わたしはデウイさんの荷物を持ってくれました。	70.9
7	わたしは田中先生に日本語を教えていただきました。	73.4
19	二ナさんの宿題を手伝ってあげようと思っています。	73.8
17	毎朝花に水をやったので、きれいな花が咲きました。	84.0
23A	だれか日本人を紹介していただけませんか。	87.6

Table 2を見ると、正答率 50%以下の問題が 14 問もあり、やりもらいの習得の困難さがわかる。80%以上が正解した問題は 2 問あり、「～していただけませんか」を使った依頼や、人以外の対象に「やる」といった、いわゆる慣用的な表現は定着しているようだ⁴。

次節では各大学の傾向を見ていく。

5.2 HASIL/OUTPUT UNTUK UTAMA

Table 3 Statistics UTAMA

		Jawaban	
		Benar	Hasil Nilai
N	Valid	6	6
	Missing	0	0
Mean		24.67	68.52

⁴ 問題文の全文は当セミナー予稿集「日本語の授受表現」(山本晃彦)に掲載されている。

Std. Deviation	2.875	7.974
Minimum	20	56
Maximum	28	78

5 . 2 . 1 Analisis :

Jumlah populasi mahasiswa semester V Universitas Widyatama sebanyak 11 orang. Pada saat membagikan kuesioner diambil secara random berdasarkan Indeks Prestasi mahasiswa atau $IPK \geq 2,5$. Data diolah berdasarkan nilai yang diperoleh dari pertanyaan yang dikerjakan mahasiswa sebanyak 36 butir soal.

Dari table di atas, pertama dilihat dari nilai yang diperoleh mahasiswa. Data nilai terkecil /minimum yang diperoleh mahasiswa adalah 56, sedangkan nilai terbesar/maksimum adalah 78. Dari data tersebut rata-rata nilai mahasiswa jurusan Bahasa Jepang untuk pemahaman "やりもらい" di Utama adalah 68.52 dengan standar deviasi 7.97. Standar deviasi sebesar 7.974 ($7.97/68.5 \times 100 \% = 11,64 \%$) menunjukkan adanya variasi yang kecil, karena tidak lebih dari 20 % dari Mean. Hal ini menunjukkan kemampuan mahasiswa lebih bervariasi pada nilai tidak terlalu jauh perbedaan kemampuannya. Kondisi ini dapat dikatakan tidak ada kesenjangan antara nilai tertinggi dan nilai terendah yang diperoleh oleh mahasiswa Utama.

Sedangkan dilihat dari frekuensi jawaban yang benar, rata-rata mahasiswa Utama menjawab jawaban yang benar adalah 24.67 soal dari 36 butir soal yang diberikan. Data rata-rata ini diperoleh dari jumlah jawaban yang benar minimum sebanyak 20 soal dan maksimum jawaban yang benar adalah 28 soal. Perbandingan antara standar deviasi dengan Mean untuk frekuensi relatif lebih kecil yakni $2.875/24.67 = 11.6 \%$). Hal ini menunjukkan bahwa frekuensi jawaban mahasiswa lebih bervariasi antara jumlah jawaban yang tertinggi dengan jumlah jawaban mahasiswa terendah.

Dari data kuesioner, jawaban mahasiswa terhadap beberapa soal kurang bisa dimengerti. Hal ini dilihat dari konssistensi dalam menjawab dengan data yang diperoleh sebagai contoh, terdapat beberapa soal yang sejenis tetapi dalam menjawab tidak sama. Kondisi ini juga menjadikan pertanyaan penulis sebagai pengajar. Dari telusuran singkat dengan mahasiswa, ada beberapa hal yang menjadi alasan, diantaranya:

- Mahasiswa sangat terpaku dengan pola tertentu
- Mahasiswa kurang menyadari/memahami prinsip "くれる" atau "~てくれる"
- Mahasiswa keliru antara pengertian/pemahaman memberi barang dan memberikan jasa kepada yang lebih atas posisinya

5 . 2 . 2 Kesimpulan

Dari data hasil nilai yang diperoleh mahasiswa apabila dipersentasikan, baru 68,5% mahasiswa yang memiliki kemampuan pemahaman terhadap materi tersebut. Hal ini menunjukkan bahwa kemampuan mahasiswa masih rendah, dilihat dari standar/sasaran universitas yaitu 75% mahasiswa menguasai materi dengan baik.

5 . 3 Hasil Penelitian Kesalahan Pemakaian Jujy-Hyogen pada Mahasiswa Semester5 dan 7 Universitasu Nasional Pasim

Hasil analisis penelitian ini saya bagi dua, yaitu hasil analisis dilihat dari segi mahasiswa / peserta tes dan hasil analisis dilihat dari segi soal yang dikerjakan oleh mahasiswa. Dari sana maka kita akan dapat menarik kesimpulan kesalahan pemakaian terbanyak untuk materi jujy hyogen ini.

5 . 3 . 1 Analisis Dilihat dari Segi Mahasiswa / Peserta TES

Nilai tertinggi yang diperoleh mahasiswa semester 5 adalah 23 point (63,9%) dan yang paling rendah 14 point (38,9%). Yang mendapat nilai tertinggi ada dua orang. Sedangkan dari semester 7 nilai tertinggi 24 point (66,7%) dan yang paling rendah 12 point (33,3%). Dengan demikian dari hasil keseluruhan nilai tertinggi dan terendah adalah dari mahasiswa semester 7. Dapat dikatakan bahwa perbedaan nilai pada mahasiswa semester 7 begitu kontras, sedangkan pada semester 5 nilai yang didapat

relatif sama.

Tetapi apabila kita perhatikan Standar Deviasi (SD), Unas Pasim memiliki SD senilai 4,3 yang termasuk ke dalam kategori rendah. Dengan demikian sebenarnya perbandingan antara nilai tertinggi dan terendah tidak begitu jauh.

Adapun rata-rata kemampuan bahasa Jepang mahasiswa adalah level4 nihongo noryoku shiken. Ada kalanya tingkat kemampuan bahasa Jepang tidak begitu berpengaruh terhadap nilai tes yang didapat. Sebagai contoh adanya mahasiswa yang memiliki tingkat kemampuan bahasa Jepang level 4 tetapi nilai yang didapat lebih rendah dari mahasiswa yang belum pernah mengikuti atau belum lulus nihongo noryoku shiken.

Apabila kita membandingkan kemampuan mahasiswa semester 5 dan 7, nilai rata-rata mahasiswa semester 5 lebih tinggi daripada semester 7. Nilai rata - rata semester 5 adalah 18,4 (51,0%) dan nilai rata-rata mahasiswa semester 7 adalah 16 (44,4%). Sedangkan pada kenyataannya, dalam keseharian menurut hemat kami, mahasiswa semester 7 lebih memiliki kemampuan bahasa Jepang yang kuat dan motivasi untuk belajar.

Hal ini dapat disebabkan karena mahasiswa semester 7 sudah tidak begitu fokus lagi dalam menerima pembelajaran di kelas. Mereka sekarang ini lebih disibukkan oleh penulisan skripsi, atau sebagian ada yang sudah bekerja.

5 . 3 . 2 Analisis Dilihat dari Segi Soal

5 . 3 . 2 . 1 Soal yang Dinilai Mudah Menurut Mahasiswa

Pada saat hasil tes diurutkan berdasarkan jawaban mahasiswa, dimulai dari soal dengan jawaban benar yang paling banyak sampai soal dengan jawaban benar yang paling sedikit, maka di situ akan terlihat soal yang termudah dan tersulit untuk dipahami oleh mahasiswa. Adapun rincian soal yang termudah adalah sebagai berikut :

- a. Soal no 23 A (seluruh mahasiswa telah memilih jawaban yang benar)
- b. Soal no 28 A (10 orang mahasiswa yang telah memilih jawaban benar)
- c. Soal no 7 (9 orang mahasiswa yang telah memilih jawaban benar)
- d. Soal no 14 (9 orang mahasiswa yang telah memilih jawaban benar)
- e. Soal no 23B (9 orang mahasiswa yang telah memilih jawaban benar)
- f. Soal no 25 C (9 orang mahasiswa yang telah memilih jawaban benar)

Keenam soal tersebut sebagian besar telah dipahami oleh mahasiswa. Berikut penjelasannya :

- a. Mahasiswa memahami penggunaan $\triangleleft れる$ sebagai ungkapan orang lain memberi sesuatu kepada diri sendiri seperti yang terdapat pada soal no 14,

terutama adanya kata kunci 私の誕生日 (ulang tahun saya) yang memperjelas siapa yang menerima jasa dalam hal ini. Mahasiswa pun dapat memahami penggunaan あげる sebagai ungkapan memberi sesuatu dari diri kita sendiri kepada orang lain (soal no 28A), selama konteks kalimat tersebut mudah untuk dipahami, ditujukan kepada orang yang setara kedudukannya serta tidak ada makna うち dan そと dalam kalimatnya .

- b. Mahasiswa telah memahami penggunaan いただく sebagai ungkapan menerima sesuatu dari orang yang kita hormati. (soal no 7, 23 A, 23B, 25C). Dalam hal ungkapan いただく ini pun mahasiswa memiliki kata kunci 先生 sehingga mempermudah untuk memilih jawaban yang paling tepat.

5 . 3 . 2 . 2 Soal yang Dinilai Sulit Menurut Mahasiswa

Sedangkan rincian soal tersulit adalah sebagai berikut :

- a. Soal no 10 (tidak ada seorang pun mahasiswa yang memilih jawaban benar)
- b. Soal no 18 (tidak ada seorang pun mahasiswa yang memilih jawaban benar)

- c. Soal no 27C (tidak ada seorang pun mahasiswa yang memilih jawaban benar)
- d. Soal no 21 (hanya satu orang mahasiswa yang memilih jawaban benar)
- e. Soal no 24 (hanya satu orang mahasiswa yang memilih jawaban benar)
- f. Soal no 22B (hanya dua orang mahasiswa yang memilih jawaban benar)
- g. Soal no 5 (hanya dua orang mahasiswa yang memilih jawaban benar)

5 . 3 . 3 Pembahasan rincian soal tersulit, akan saya bagi menurut kesalahannya.

1) Kesalahan dalam memahami dan membedakan partikel. (Soal no 5)

Mahasiswa masih mengalami kesulitan untuk memahami perbedaan kata bantu terutama yang berhubungan dengan kata bantu に dan の, seperti pada soal no 5 berikut :

5 . 友達に宿題を手伝って (1. あげ 2. もらわ 3.くれ) ないでください。

Dari hasil tes soal no 5, hanya dua orang yang memilih jawaban benar yaitu もらう . Yang lainnya sebanyak 9 orang memilih jawaban あげる dan tidak ada seorang pun yang memilih くれる. Mahasiswa menganggap kalimat tersebut sama dengan :

友達の宿題を手伝ってあげないでください。

2) Kesalahan dalam memahami konteks kalimat majemuk (Soal no 10)

Mahasiswa masih kesulitan untuk dapat memahami makna dari konteks kalimat majemuk, seperti yang terdapat dalam soal no 10 :

10 . 妻は私が誕生日に (1 . 買った 2 . 買ってあげた 3 . 買ってもらった 4 .
買ってくれた) スカートをはいています。

Tidak seorang pun yang memilih jawaban benar. 8 orang memilih 買ってもらった dan 3 orang memilih 買ってくれた. Jawaban 買った dan “買ってあげた” tidak ada yang memilih.

Selain soal no 10, soal lain yang menggunakan kalimat majemuk adalah soal no 8, 9, 12, 13, 14 dan 15.

Tetapi untuk soal no 8, 12 dan 14 sebagian besar mahasiswa sudah dapat memilih jawaban dengan benar karena mudah ditangkap maknanya, terutama soal no 8 yang memiliki kata kunci 先生 dan soal no 4 yang memiliki kata kunci 私の誕生日 sebagaimana yang dijelaskan di atas.

Adapun soal no 9, 13 dan 15, masih banyak mahasiswa yang belum dapat memilih jawaban dengan benar, no 9 karena adanya kata kunci 先生 tanpa menghiraukan kata bantu yang digunakan sehingga ada yang memilih いただく

sebagai jawabannya. Soal no 13 mahasiswa belum memahami adanya perbedaan antara **うち** dan **そと**. No 15 terkecoh dengan penggunaan kata bantu **から** yang seharusnya berpasangan dengan **もらう / いただく**

3) Kesalahan dalam pemakaian ungkapan **あげる**. (Soal no 18, 21 dan 24)

Pada soal no 18, 21 dan 24, mahasiswa belum mengetahui penggunaan ungkapan **あげる** yang tidak dapat digunakan untuk orang yang baru dikenal atau orang yang tingkatannya lebih tinggi.

18 .{ 駅までの道がわからなくて困っている人に }

私 も 駅 まで 行きます ので (1 .いっしょに 行きましょう 2 .
いっしょに 行ってあげましょう 3 .つれて行きましょう 4 .つれて 行っ
て 行きましょう)

Dari hasil tes soal no 18 tidak ada seorang pun mahasiswa yang memilih jawaban benar. Ada 3 orang yang memilih jawaban no 2 dan 8 orang yang memilih jawaban no 4. Jawaban no1 dan no 3 tidak ada yang memilihnya.

21 .{ 忙しい そう な 先輩 に }

忙しい ですね。(1 .手伝いましょうか 2 .お手伝いしてあげましょうか

3 . 手伝ってさしあげましょうか)

Untuk soal no 21, hanya satu orang yang dapat memilih dengan tepat 手伝いま
しょうか. 6 orang memilih jawaban no 2 dan 4 orang memilih no 3.

24 . 先生 : では、だれか次のページを読んで ください。

ラニ : はい、先生、私 が (1 . 読みます 2 . 読んであげます 3 . 読んで
さしあげます 4 . 読んでくださいます)

Begitupun juga halnya dengan soal no 24 hanya satu orang yang dapat memilih
jawaban tepat よみます. 2 orang memilih jawaban no 2 , 6 orang memilih jawaban
no 3 dan 2 orang memilih jawaban no 4

Tetapi pada soal no 25B,

A.: 明日、(1 . 取りに来ましょうか 2 . 取りに来てもいいですか 3 . 取りに来て
あげましょうか)

Bagi mahasiswa semester 7 soal ini tidak ada masalah. Karena
sudah dapat memilih jawaban yang tepat. Tetapi kesalahan masih banyak dilakukan
oleh mahasiswa semester 5, di mana sebagian besar memilih jawaban no 3 (6

orang), 1 orang memilih jawaban no 1 dan hanya satu orang saja yang memilih jawaban tepat.

4) Kesalahan dalam memahami “うち” dan “そと” (Soal no 22 B dan 27 C)

Soal no 4 termasuk soal yang memiliki makna “うち” dan “そと”

4 . 田中さんは私の恋人に日本の雑誌を送って (1 . あげ 2 . もらい 3 . くれ)
ました。

Dari hasil tes, 8 orang memilih jawaban yang tepat, 2 orang memilih jawaban no 1 dan 1 orang memilih jawaban no 2. Dengan demikian pada soal ini sebagian besar mahasiswa sudah memahami dengan baik makna うち dan そと. Hal ini dikarenakan pola kalimatnya sesuai dengan rumus yang mereka dapatkan sewaktu pembelajaran dan bukan termasuk ke dalam kalimat majemuk serta adanya kata kunci 私 の 恋人

Begitu pun juga untuk soal no 13, berhubungan dengan masalah “うち” dan “そと”

13 . これはドニさんが弟に (1 . あげた 2 . くれた) 本です。

Mahasiswa memahami adanya seseorang yang disebut **うち** dalam hal ini 弟, tetapi karena termasuk kalimat majemuk yang sulit dipahami, maka hanya 4 orang yang memilih jawaban tepat dan 7 orang memilih jawaban no 1. Dengan demikian jika dibandingkan dengan soal no 4, masih banyak mahasiswa yang melakukan kesalahan.

Pada soal no 22 B dan 27C, mahasiswa belum memahami adanya hubungan “**うち**” (orang dalam) dan “**そと**” (orang luar)

22 B. ニサ : ええ、ほんと？ラニの誕生日にドニくんは何も買って (1 . あげ 2 . もらわ 3 . くれ) なかったんでしょ？

Pada soal no 22 B, hanya 2 orang yang memilih jawaban tepat **くれる**. Yang lainnya sebanyak 4 orang memilih **あげる** dan 5 orang memilih **もらう**. Anehnya yang memilih jawaban benar adalah mahasiswa yang mendapatkan nilai rendah, mungkin itu pun karena faktor keberuntungan saja.

Bahkan untuk soal no 27C, tidak ada seorang pun yang memilih jawaban benar, mahasiswa lebih memilih jawaban **あげる** (7 orang) dan **もらう** (4 orang)

27 C. ニサ : ラニさん、お兄ちゃん、送って (1 . あげる 2 . もらう 3 . くれる)
って

ラニ : うれしい。ありがとう。

Soal no 22 B dan 27 C merupakan soal berbentuk percakapan sehingga sulit ditangkap makna *うち* dan *そと* nya.

5 . 3 . 4 Kesimpulan

Dari hasil analisis ini yang dapat saya simpulkan adalah :

1. Mahasiswa Universitas Nasional Pasim memahami ungkapan *juju hyogen* ini dalam batasan struktur kalimat yang sederhana, namun belum memahami sepenuhnya apabila terdapat variasi dalam struktur kalimat tersebut.
2. Kesalahan pemakaian banyak didapatkan pada pola kalimat majemuk, terutama dalam memahami konteks kalimat dan partikel,
3. Mahasiswa belum memahami kebiasaan orang Jepang untuk tidak menggunakan *あげる* kepada orang yang baru dikenal atau kepada orang yang lebih tinggi kedudukannya
4. Mahasiswa belum memahami ungkapan *うち* dan *そと*, yang dapat juga digunakan

pada kalangan teman selain anggota keluarga

5 . 4 Analisis Data Penelitian Juku-Hyogen pada Mahasiswa Semester5 dan Semester7 Universitasu Komputer Indonesia

5 . 4 . 1 Responden

Table 4 Berdasarkan Tes Kemampuan Bahasa Jepang

No	Semester	Level 2	Level 3	Level 4	Belum	Jumlah
1	V	-	4	2	3	9
2	VII	1	6	2	3	12
	Jumlah	1	10	4	6	21

Analisis: Tidak ada seorangpun mahasiswa semester V yang memiliki kemampuan bahasa Jepang level 2, dan Satu orang mahasiswa semester VII memiliki kemampuan bahasa Jepang level 2, sepuluh orang (4 orang semester V dan 6 orang semester VII) memiliki Kemampuan Bahasa Jepang level 3, empat orang (2 orang semester V dan 2 orang semester VII) memiliki kemampuan bahasa Jepang level 4, dan 6 orang (3 orang semester V dan 3 orang semester VII) belum pernah

mengikuti nihongonoryokushiken

5 . 4 . 2 Pengolahan Data Hasil Tes

Table 5 Hasil Tes

No	Semester	Nilai Tertinggi	Nilai Terendah	Rata-rata
1	V	27	8	42
2	VII	25	9	43,5
	Jumlah			42,9

Analisis: Nilai rata-rata yang diperoleh mahasiswa sangat rendah yaitu 42,9, sehingga dapat dikatakan Kemampuan mahasiswa dalam menguasai Jujy Hyougen tidak baik.

A. Jumlah Jawaban Benar Tertinggi

Jumlah Jawaban Benar Tertinggi Mahasiswa Semester V, berdasarkan

kemampuan nihongo noryokushiken

Table6 Jumlah Jawaban Benar Tertinggi Semester V

No	Jumlah Jawaban Benar	Persentase	Level 2	Level 3	Level 4	Belum
1	27	75%		1 orang		
2	19	52,8%		1 orang		
3	17	47,2%				1 orang

Jumlah Jawaban Benar Tertinggi Mahasiswa Semester VII, berdasarkan kemampuan nihongo noryokushiken

Table7 Jumlah Jawaban Benar Tertinggi Mahasiswa Semester VII

No	Jumlah Jawaban Benar	Persentase	Level 2	Level 3	Level 4	Belum
----	----------------------	------------	---------	---------	---------	-------

1	25	69,4%		1 orang		
2	18	50%		1 orang		
3	17	47,2%		2 orang		1 orang

Analisis: Tidak ada hubungan antara lamanya mahasiswa belajar, level pada nihongo no noryokushiken dengan kemampuan dalam menguasai Juku Hyougen

B. Soal Yang Paling Banyak dijawab dengan Benar oleh Mahasiswa

Tabel8 Soal Yang Paling Banyak dijawab dengan Benar oleh Mahasiswa Semester V

No	Nomor soal	Jumlah	Persentase
1	23A	8	88,9%
2	1, 2, 3, 8, 17, 19	6	66,7%

Table9 Soal Yang Paling Banyak dijawab dengan Benar oleh Mahasiswa Semester VII

No	Nomor	Jumlah	Persentase
----	-------	--------	------------

	soal		
1	2, 23A	11	91,7%
2	17	10	83,3%
3	7, 18	8	66,7

Analisis: No Soal 23, merupakan soal yang paling banyak dijawab dengan tepat oleh Mahasiswa semester V dan mahasiswa semester VII, sehingga dapat dikatakan bahwa soal no 23 terlalu mudah.

C. Soal Yang Paling Banyak dijawab dengan Salah oleh Mahasiswa

Tabel10 Soal Yang Paling Banyak dijawab dengan Salah oleh Mahasiswa Semester V

No	Nomor soal	Jumlah	Persentase
1	14, 27C	9	100%
2	6, 21, 24	8	88,9%
3	5, 22B, 25C	7	77,8%

Table11 Soal Yang Paling Banyak dijawab dengan Salah oleh Mahasiswa Semester

VII

No	Nomor soal	Jumlah	Persentase
1	14, 27C	10	83,3%
2	9, 16, 22A	9	75%

Analisis: No Soal 14, dan 27 C, merupakan soal yang paling banyak dijawab dengan salah oleh Mahasiswa semester V dan mahasiswa semester VII, sehingga dapat dikatakan bahwa soal no 14 dan 27C sangat sulit.

Tabel12 Nomor Soal: 6

No	Semester	Jumlah yang menjawab	Persentase
----	----------	----------------------	------------

		benar	
1	V	1	11,1%
2	VII	4	33,3%

Analisis: Soal No 6, sebetulnya adalah soal yang sangat mudah, akan tetapi frekuensi jawaban benar baik mahasiswa semester V maupun semester VII sangat kecil, hal ini mungkin disebabkan mahasiswa tidak teliti atau tidak serius dalam menjawab soal.

Table13 Nomor Soal: 21

No	Semester	Jumlah yang menjawab benar	Persentase
1	V	1	11,1%
2	VII	7	58,3%

Analisis: Hampir seluruh Mahasiswa semester V salah dalam menjawab soal nomor 21 ini. Sedangkan lebih dari setengah mahasiswa semester VII mampu

menjawab dengan benar. Hal ini mungkin karena mahasiswa semester VII sudah belajar lebih mendalam mengenai jujhyougen, khususnya dalam matakuliah kaiwa.

5 . 5 Universitas Kristen Maranatha

Table14 全体結果

	全体	UKM
人数 (人)	282	54
平均点 (/36)	18.7	20.6
平均点 %	51.9%	57.3%
標準偏差 (S.D)	5.4	7.0
最高得点 (Max)	35	35
最低得点 (Min)	7	9

S.D が全大学で一番高い。平均点も 2 番目に高い。最高点がある。

5 . 5 . 1 全体の結果

a. Soal yang paling banyak benar

7. わたしは田中先生に日本語を教えて(①さしあげ ②いただき ③ください)ま

した。

46 orang

17. 毎朝花に水を (①やった ②もらった ③くれた) ので、きれいな花が咲きました。

44 orang

23 A. S : 先生、日本語の会話を練習したいんですが、だれか日本人を (①紹介しませんか ②紹介なさいませんか ③紹介していただけませんか)

44 orang

1. 寝る前^ねにいつもむすめに本を読んで (①あげ ②やり ③くれ) ます。 42

orang

Kesimpulan: Sangat memahami penggunaan 「やる」

b. Soal yang paling banyak salah

22B. ニサ : ええ、ほんと？ ラニの誕生日にドニ君は何も買って (①あげ ②もらわ ③くれ) なかったんでしょ？ 10 orang

25C. A :きのうの手紙、もう (①読みましたか ②お読みになりましたか ③読んでいただけましたか)。 17 orang

21. [忙しい先輩に]

忙しいですね。(①手伝いましょうか ②お手伝いしてあげましょうか ③手伝ってさしあげましょうか)。 20 orang

5 . 5 . 2 Semester 別の結果

a. Soal yang paling banyak benar

Semester V

1. No. 17 = 18 orang

17. 毎朝花に水を (①やった ②もらった ③くれた) ので、きれいな花が咲きました。

2. No. 1 = 17 orang

1. 寝る前にいつもむすめに本を読んで (①あげ ②やり ③くれ) ます。

3. 12 = 17 orang

12. あなたが (①送った ②送ってあげた ③送ってくれた) りんご、とてもおい

しかったです。

4. 2 = 16 orang

2. わたしはデウイさんの荷物にもつを持って (①あげ ②もらい ③くれ) ました。

Semester VII

1. No. 23 A = 30 orang

23 A. S : 先生、日本語の会話を練習したいんですが、だれか日本人を (①紹介しょうかいしませんか ②紹介なさいませんか ③紹介していただけませんか)

2. 7 = 29 orang

7. わたしは田中先生に日本語を教おえて (①さしあげ ②いただき ③ください) ました。

3. 2 = 26 orang

2. わたしはデウイさんの荷物にもつを持って (①あげ ②もらい ③くれ) ました。

4. 17 = 26 orang

17. 毎朝花に水を (①やった ②もらった ③くれた) ので、きれいな花が咲さきました。

5. 19 = 26 orang

19. A : 明日何をしますか。

B : 二ナさんと図書館へ行くつもりです。二ナさんの宿題を手伝って(①あげよう ②もらおう ③くれよう)と思っています。

Kesimpulan: Disebabkan karena pola kalimat yarimorai diajarkan pada semester sebelumnya, maka nampaknya mahasiswa semester 7 lupa dengan pola kalimat tersebut, dibandingkan mahasiswa semester 5.

b. Soal yang paling banyak salah

Semester V

1. No. 22 B = 6 orang

22 B. ニサ : ええ、ほんと？ ラニの誕生日にドニ君は何も買って(①あげ ②もらわ ③くれ)なかったんでしょ？

2. 9 = 7 orang

9. 先生が(①さしあげた ②いただいた ③くださった)辞書はたいへん使いやすいです。

3. 23 C = 7 orang

23C. 先生が(①紹介した ②紹介なさった ③紹介していただいた ④紹介してくださった)人に会いました。

4. 25 C = 7 orang

25C. A : きのうの手紙、もう (①読みましたか ②お読みになりましたか ③読んでいただけましたか)。

5 24 = 8 orang

24. 先生 : では、だれか、^{つぎ}次のページを読んでください。

ラニ : はい、先生。私が (①読みます ②読んであげます ③読んでさしあげます ④読んでくださいます)。

Semester VII

1. 22 B = 4 orang

22B. ニサ : ええ、ほんと? ラニの誕生日にドニ君は何も買って (①あげ ②もらわ ③くれ) なかったんでしょ?

ラニ : うん。ニサは?

ニサ : わたしも。うらやましいな。デウィさんだけ・・・。

2. 25 C = 10 orang

25C A : きのうの手紙、もう (①読みましたか ②お読みになりましたか ③読んでいただけましたか)。

3. 21 = 12 orang

21. [忙しい^{いそが}そう^{せんぱい}な先輩に]

忙しいですね。(①手伝いましょうか ②お手伝いしてあげましょうか ③
手伝ってさしあげましょうか)。

Kesimpulan: a. Mahasiswa semester 5 tidak ,menguasai bentuk 差し上げる、下さる、

いただく

b. Bentuk yarimorai pada soal

percakapan dan bentuk klausa relatif menjadi kendala, baik pada mahasiswa

semester V dan semester VII

5 . 5 . 3 .

1. Jumlah yang paling banyak benar, berdasarkan kemampuan nihongo no noryokushiken

Semester V

1. Betul 35 , 97,2%, belum pernah ikut nihongo no noryokushiken
2. Betul 34, 94,4%, level 3
3. Betul 34 nomor, 94,4%, blm pernah mengikuti nihongo no noryokushiken

Semester VII

1. Betul 32 , 88,9%, belum level mana pun pada nihongo no noryokushiken

2. Betul 30 , 83,3%, level 3
3. Betul 30 , 83,3%, level 3

2. Jumlah yang paling sedikit benar, berdasarkan kemampuan nihongo no noryokushiken

Semester V

1. Betul 10 , 27,8%, level 4
2. Betul 11 , 30,6%, level 4
3. Betul 13, 36,1%, level 4

Semester VII

1. Betul 9, 25,0%, level 3
2. Betul 10, 27, 8%, belum level mana pun pada nihongo no noryokushiken
3. Betul 12, 33,3%, level 4

Kesimpulan: Tidak ada hubungan antara tingkatan level pada nihongo no noryokushiken dengan kemampuan mengerjakan soal-soal.

5 . 6 STBA - YAPARI の傾向

間違いが多かった問題上位5つについて

5.6.1 仮説2から2問

1) 目上の人への発話(先輩) 敬体

21 忙しいそうですね。(①手伝いましょうか ②お手伝いしてあげましょうか ③手
伝ってさしあげましょうか)。

正解者が5人(6.8%)。目立った誤答は③手伝ってさしあげましょうか。(67.6%) 仮説2の通り～てあげる。の過剰使用であり「さしあげる」が「あげる」の謙譲語であるという知識に引っ張られ回答が③に偏ったものと思われる。

2) 目上の人への発話(先生) 敬体

24 はい、先生。私が(①読みます ②読んであげます ③読んでさしあげます ④
読んでくださいます)。

正解者が11人(14.9%) semester5に至っては正解者が0でした。目立った誤答は③読んでさしあげます(51.4%) 21同様に仮説2の～てあげる。の過剰使用であり、「さしあげる」に引っ張られているのも同様であると思われる。

ちなみに、仮説2の他の問題の18と25Bの正解率は35.1%と41.9%。21と24に比べ正解率が高い。それは、「さしあげる」という選択肢がないのも原因のひとつではないかと思われる。

5.6.2 仮説3から

補助動詞 常体

22B ラニの誕生日にドニ君は何も買って(①あげ ②もらわ ③くれ)なかったんでしょ？

正解者が8人(10.8%)。目立った誤答は①あげ(55.4%)この問題の特徴は、二人の会話で4人が会話に登場するということで、授受の方向がわかりづらいように思う。ウチとソトの理解だけでいうと同様の問題4と13の正解率は、64.9%と70.3%と比較的高いし、より特殊な設定の27Cでも正解率24.3%である事からも、登場人物の多さがこの問題の正解率の低さの原因だと思われる。

5.6.3 その他から

補助動詞 目下の人への発話

1 寝る前にいつもむすめに本を読んで(①あげ ②やり ③くれ)ます。

正解者が12人(16.2%)。目立った誤答は①あげ(51.4%) 正解は目下には「やる」を使う。ということだが、一部のテキストには「やる」は人に使うとぞんざいな印象を与えるとあり、当校でも指導する際「あげる」でもよいと指導した。そのため、この問題の正解率が低かったものと思われる。同様の17の問題では95.9%と高い正解率であることから、花や動物に「やる」は定着していると思われる。

5.6.4 仮説4から

補助動詞 連体修飾節

10 妻はわたしが誕生日に(①買った ②買ってあげた ③買ってもらった ④買ってくれた) スカートをはいています。

正解者が 17 人 (23%)。目立った誤答は④買ってくれた (54.1%) 仮説4の問題は10を含めて9問ある。10以外の8問の正解率が比較的高いことから、間違いの原因が仮説以外にあるのではないかと考えます。10、12、14、16の選択肢には、それぞれ「てあげる」「てくれる」があり、似た問題であると考えられる。すべてについて、学生は「てくれる」を選んでいる。つまり「妻は私が～」の部分で混乱したように思われる。「妻は」を「はいています。」の直前に持ってくれば、正解率はあがったのではないだろうか。

5.7 Analisis pemerolehan pada mahasiswa Universitas Pendidikan Indonesia

Analisis

Penelitian ini dilakukan dengan mengadakan test yang berupa soal pilihan berganda sebanyak 36 soal kepada mahasiswa semester 5 sebanyak 34 orang, semester 7 sebanyak 22 orang, total 56 orang dan dilaksanakan pada awal Desember 2009.

Analisis data pada bagian ini akan dibahas berdasarkan 2 kategori yaitu,

5 . 7 . 1 Kategori Gramatikal

5 . 7 . 1 . 1 Benarnya penggunaan kata kerja

Tabel 14 : Data Hasil Tes

No	Kalimat	Jawaban	
		Benar	Salah
1	寝る前にいつもむすめに本を読んで (①あげ ②やり ③くれ) ます。	20 (53,6%) やる	17 (30,4%) あげる
4	田中さんは私の恋人に日本の雑誌を送って (①あげ ②もらい ③くれ) ました。	23 (41,1%) くれる	18 (32,1%) あげる
13	これはド二さんが弟に (①あげた ②くれ た) 本です。	30 (53,6%) くれる	26 (46,4%) あげる
16	明日ド二さんが私の車を (①直し ②直して あげ ③直してもらい ④直してくれ) ます。	28 (50%) くれる	13 (23,2%)

			あげる
27B	ニサ：お兄ちゃん、ラニさんをバイクで駅まで 送って(①あげて ②もらって ③くれて) 兄：いいよ。	27 (48,2 %) あげる	18 (32,1%) くれる

Pada soal No.4, No.13, No.16 dan No.27B jumlah total jawaban yang benar lebih besar daripada yang salah dan perbedaannya sangat sedikit, Beberapa orang mahasiswa masih ada yang menjawab dengan kata kerja **あげる** dan **くれる** pada soal 27B. Mungkin karena kurangnya pemahaman mahasiswa terhadap pola kalimat **あげる** dan **くれる** adalah sebagai berikut :

Orang pertama/Orang ketiga **は / が** Orang ketiga **に** Barang/Jasa **をあげる / ~てあげる**

Orang ketiga **は / が** Orang pertama/pihak dari orang pertama **に** Barang/Jasa **を**

くれる / ~てくれる

Sehingga banyak mahasiswa bingung untuk menggunakan kata kerja diatas dan menganggap bahwa Si Penerima (orang pertama) adalah orang ketiga yaitu 私の恋人 (No. 4) dan 弟 (No.13), sedangkan pada soal No. 16 dikarenakan tidak adanya petunjuk 格助詞 yang jelas seperti yang diajarkan pada buku teks maka ada beberapa mahasiswa yang menjawab あげる dan menjawab くれる pada soal 27B. Kemudian pada No.1 masih ada mahasiswa yang menjawab あげる mungkin karena dianggap membacakan buku kepada むすめ yang berupa jasa, padahal seharusnya menggunakan やる kepada 下の人. Jawaban benar yang diberikan mahasiswa semester 5 dan 7 nampak ada perbedaan yang mencolok, yaitu 73,5% dan 22,7% pada No.1, 50% dan 27,3% pada No.4 , 67,6% dan 31,8% pada No.13, 61,8% dan 31,8% pada No.16. Hal ini mungkin dikarenakan kurangnya pemahaman terhadap materi tersebut. Disamping itu mahasiswa semester 7 sudah jarang menggunakan pola tersebut sehingga membuatnya lupa.

5 . 7 . 1 . 2 Kesalahan penggunaan kata kerja

Tabel 15: Data Hasil Tes

No	Kalimat	Jawaban	
		Benar	Salah
5	友達に宿題を手伝って (①あげ ②もらわ ③くれ) ない	17	18

	<p>ください。</p>	<p>(41, 1%) もらう</p>	<p>(32,1 %) あげる</p>
10	<p>妻はわたしが誕生日に (①買った ②買ってあげた ③買ってもらった ④買ってくれた) スカートをはいています。</p>	<p>21 (37, 5%) あげる</p>	<p>23 (41,1 %) くれる</p>
26	<p>A : 道はすぐ分かりましたか。 B : はい。道を歩いている人に聞いたら、とても親切に (①教えました ②教えていただきました ③教えてくださいました) から。</p>	<p>13 (23, 2%) くれる</p>	<p>37 (66,1 %) もらう</p>
22	<p>ニサ : ええ、ほんと？ ラニの誕生日にドニ君は何も買って B (①あげ ②もらわ ③くれ) なかったんでしょ？ ラニ : うん。ニサは？ ニサ : わたしも。うらやましいな。デウィさんだけ・・・。</p>	<p>9 (16, 1%) くれる</p>	<p>30 (53,6 %) あげる</p>

Pada soal No.5 jawaban yang salah sedikit lebih banyak daripada yang benar, penulis menganggap bahwa yang ada di benak mahasiswa pertama kali membaca soal tersebut adalah “Jangan membantu teman dalam membuat PR!” oleh sebab itu,

jawabannya あげる. Sedangkan untuk kalimat yang panjang membuat mahasiswa menjadi bingung dengan penggunaan kata kerja yang tepat, seperti pada No. 10, 26, 22B. Kesalahan penggunaan あげる dan くれる maupun kebalikannya dapat dilihat pada No.10 dan 22B yang mana subjeknya sudah jelas tetapi ketika menjadi 連体修飾節 seperti pada No.10 mungkin mahasiswa ceroboh tidak membaca kalimat dengan utuh dan menganggap bahwa istri membelikan sesuatu pada saat ulang tahun saya, sebenarnya apabila dipisahkan frase-frase tersebut maka pokok kalimatnya adalah 妻はスカートをはいています。 Dari kalimat ini berkembang menjadi Rok yang mana? Jawabannya adalah 私が (妻) の誕生日に買ってあげたスカートです。 Sedangkan pada soal No.22B tidak dicantumkan dengan jelas siapa yang tidak menerima kado ketika Ulang Tahun, sebenarnya sudah ada petunjuk bahwa yang tidak menerima kado adalah Rani, ini dapat dilihat dari kalimat ラニの誕生日に dikarenakan Rani masih bagian dari Si Pembicara maka digunakanlah kata kerja くれる. Kemudian untuk No.26, mahasiswa menganggap bahwa diberi tahu jalan yang hendak dituju oleh orang yang sedang berjalan, ~てもらふ dapat diartikan menjadi kalimat pasif, contoh : 急にお金が必要になったので、友だちにお金を貸してもらいました。(Karena darurat membutuhkan uang, maka saya dipinjamkan uang oleh teman). Kalimat yang berterima adalah 道を歩いている人が私に親切に教えてくれた。

5 . 7 . 2 Kategori Terkontaminasi soal

Kesalahan kalimat pada soal No. 18,21,24 dan 25B banyak ditemukan pada mahasiswa semester 5 dan 7. Penulis menganggap ini dikarenakan terkontaminasi dengan soal-soal lain yang mana banyak membahas mengenai *juju hyougen*. Mungkin mahasiswa tidak memahami bahwa penggunaan kata kerja ~てあげる secara langsung kepada lawan bicara terkesan menonjolkan kebaikan diri sendiri oleh karena itu, apabila lawan bicaranya adalah orang yang kedudukannya lebih tinggi atau orang yang tidak dekat dengan kita atau orang yang usianya lebih tua maka tidak sopan.

Tabel 16 : Data Hasil Tes

No	Kalimat	Jawaban	
		Benar	Salah

18	<p>[駅までの道がわからなくて困っている人に]</p> <p>私も駅まで行きますので、(<u>①一緒に行きましょう</u> ②一緒に 行ってあげましょう ③連れて行きましょう ④連れて行 ってあげましょう)。</p>	14 (25%)	26 (46,4%) あげる
21	<p>[忙しそうな先輩に]</p> <p>忙しそうですね。(<u>①手伝いましょうか</u> ②お手伝いしてあ げましょうか ③手伝ってさしあげましょうか)</p>	8 (14,3%)	26 (46,6%) さしあげ る 21 (37,5%) あげる
24	<p>先生：では、だれか、次のページを読んでください。</p> <p>ラニ：はい、先生。私が(<u>①読みます</u> ②読んであげます ③ 読んでさしあげます ④読んでくださいます)</p>	18 (32,1%)	20 (35,7%) さしあげ る
25B	<p>A：明日、(<u>①取りに来ましょうか</u> <u>②取りに来てもいいで すか</u> ③取りに来てあげましょうか)。</p>	23 (41,1%)	24 (42,9%) あげる

5 . 8 Penguasaan “Ekspresi Memberi dan Menerima (*Giving-Receiving Expressions*)

“

(Universitas Padjadjaran)

5 . 8 . 1 Pendahuluan

Makalah ini menguraikan dan menganalisis permasalahan penguasaan “ekspresi memberi dan menerima (*giving-receiving expressions*)” pada pembelajar bahasa Jepang di tingkat perguruan tinggi. “Ekspresi memberi dan menerima (selanjutnya disingkat EMM)” merupakan materi ajar yang diberikan kepada mahasiswa pada semester IV. Materi ini relatif sulit untuk dikuasai pembelajar. EMM mengandung berbagai unsur, yaitu antara lain unsur sintaksis, unsur pragmatis dan unsur budaya. Tentunya setiap ekspresi bahasa mengandung unsur-unsur seperti tersebut di atas, namun tidak selamanya unsur-unsur tersebut secara lengkap berada di dalam sebuah ekspresi. EMM yang menjadi objek penelitian ini menuntut pembelajar selalu memperhatikan semua unsur-unsur tersebut dalam penggunaannya, sehingga bagi pembelajar bahasa Jepang, ekspresi tersebut dirasakan sebagai materi ajar yang sangat ‘rumit’ untuk dikuasai. Hal ini mengindikasikan perlu solusi mengatasi ‘kerumitan’ tersebut supaya pengajar dapat memperhatikan secara lebih rinci dan spesifik mengenai penyebab kelemahan pembelajar dalam penguasaan EMM.

Selama ini, khususnya di Indonesia, belum ada penelitian yang menjelaskan masalah penguasaan ekspresi tersebut secara spesifik. Penelitian ini bertujuan

membuat spesifikasi permasalahan penguasaan EMM pada pembelajar tingkat menengah di perguruan tinggi. Untuk tujuan tersebut telah dilakukan survey berupa tes yang terdiri atas 36 buah soal dengan responden mahasiswa semester V dan VII (pelaksanaan tes pada semester gasal) yang belajar di 7 perguruan tinggi di wilayah Bandung. Data yang diperoleh dari masing-masing perguruan tinggi dianalisis oleh peneliti masing-masing perguruan tinggi yang bergabung dalam penelitian bersama, kemudian hasil analisis dipresentasikan dalam bentuk presentasi penelitian bersama pada Seminar Nasional Pendidikan Bahasa Jepang ASPBJI Korwil Jabar (23 Januari 2010).

Penulis (Otsuka) membuat makalah ini dengan tujuan untuk menyajikan secara lengkap uraian penulis dalam presentasi *power point* yang merupakan satu bagian dari presentasi penelitian bersama tersebut di atas serta uraian-uraian yang tidak sempat disinggung dalam presentasi tersebut di atas. Perlu dikemukakan pula bahwa analisis pada makalah ini secara murni hanya berdasarkan data-data yang diperoleh dari ke 60 orang responden yang dilibatkan dalam survey di tempat penulis mengajar.

Survey tersebut bertujuan memperoleh data mengenai penguasaan EMM, khususnya kelemahan-kelemahan pembelajar dalam penguasaan EMM. Selama ini sangat dirasakan bahwa kelemahan pembelajar dalam penguasaan EMM bervariasi, karena itu jika tidak dirumuskan dalam bentuk hipotesis sangat sulit mengetahui ciri kelemahan secara spesifik. Untuk itu dalam penelitian bersama pengajar di 7 perguruan

tinggi tersebut di atas secara seragam menggunakan 4 buah hipotesis. yang telah disebutkan di atas secara seragam menggunakan 4 buah hipotesis dan sebagian besar soal tes dirancang dengan mengacu pada hipotesis tersebut. Ke 4 hipotesis masing-masing sebagai berikut (Hipotesis ditulis dengan huruf miring untuk dibedakan dari keterangan mengenai hipotesis yang berada di bawahnya).

(1) *Pembelajar kurang menguasai kasus obyektif kecuali kasus obyektif yang ditandai dengan partikel kasus 'ni'.*

Hipotesis (1) ini mencakup kelemahan dalam penguasaan secara sintaksis.

(2) *Pembelajar secara berlebihan menggunakan auxiliary '-teageru'.*

Hipotesis (2) ini mencakup ketidakmengertian pembelajar tentang fungsi penggunaan auxiliary '-teageru' yang tidak tepat digunakan terhadap orang yang berkedudukan lebih tinggi.

(3) *Pembelajar tidak menguasai konsepsi 'uchi dan soto (lingkup dalam dan luar bagi penutur atau bagi partisipan dalam peristiwa)'.*

Hipotesis (3) ini mencakup kelemahan pembelajar dalam menerapkan konsepsi *uchi* dan *soto* untuk menentukan pihak pemberi benefit atau pihak penerima benefit yang sewaktu-waktu posisinya berubah sesuai situasi ujaran.

(4) *Pembelajar kurang memepergunakan EMM pada jenis kalimat tertentu yang harus mengandung pernyataan rasa terima kasih atau rasa bersyukur. Mereka hanya menggunakan bentuk deklaratif.*

Hipotesis (4) ini mencakup kelemahan mahasiswa dalam menggabungkan hubungan interpersonal antarpartisipan peristiwa dengan inti kejadiannya sendiri.

Soal tes berjumlah 36 buah soal dan jumlah soal yang mengacu pada masing-masing hipotesis berbeda seperti berikut. Soal yang mengacu pada hipotesis (1): 8 buah soal, soal yang mengacu pada hipotesis (2): 4 buah soal, soal yang mengacu pada hipotesis (3): 4 buah soal, dan soal yang mengacu pada hipotesis (4): 9 buah soal. Dengan demikian soal tes yang mengacu pada hipotesis total berjumlah 25 buah soal. Di samping itu terdapat 11 buah soal yang tidak mengacu pada hipotesis mana pun. Pada bagian 2 makalah ini diuraikan analisis data survey secara keseluruhan termasuk data ke 11 soal tersebut di atas, kemudian pada bagian 2 ini pula secara terpisah diuraikan mengenai hasil data survey soal yang mengacup pada hipotesis.

Kemudian pada bagian 3 makalah ini diuraikan hasil analisis atas ke 11 soal yang tidak mengacu ke hipotesis. Dari hasil pengamatan penulis (Otsuka) atas data ke 11 soal tersebut ditemukan beberapa segi kelemahan pembelajar yang berkaitan dengan pengetahuan mengenai pemarkah wacana (*discourse marker*), pemarkah topik, ragam bahasa sopan dan hormat, pergantian pelaku dalam konstruksi bersyarat dan sebagainya.

Walaupun data yang penulis gunakan diperoleh dari ke 60 orang responden di tempat penulis mengajar, diharapkan supaya data serta hasil analisis penulis dapat menggambarkan suatu fenomena umum yang berlaku pada pembelajar bahasa Jepang

baik di Bandung maupun di tempat lainnya di Indonesia, sehingga hasil analisis mengenai penguasaan EMM pada makalah ini mempunyai manfaat praktis pula dalam pendidikan bahasa Jepang di perguruan tinggi lainnya di Indonesia.

5 . 8 . 2 Penganalisisan Tingkat Penguasaan EMM

Bagian 2 ini menguraikan hasil survey dan uraian tersebut yang dibagi ke 4 pokok bahasan. Pada butir 2.1 diuraikan gambaran umum atas hasil tes. Pada butir 2.2 diuraikan perbedaan dan kesamaan tingkat penguasaan EMM di antara kelompok responden yang berbeda semester. Pada butir 2.3 diuraikan masalah penguasaan responden terhadap tipe-tipe soal EMM tertentu dengan memperhatikan ke 4 hipotesis di atas. Namun demikian uraian pada butir 2.3 tidak terbatas pada hipotesis tetapi meliputi pula data keseluruhan yang berjumlah 36 soal. Pada butir 2.4 diuraikan mengenai hipotesis, dan terakhir merupakan bagian penutup sebagai pengganti bagian simpulan.

5 . 8 . 2 . 1 Gambaran Umum Hasil Tes

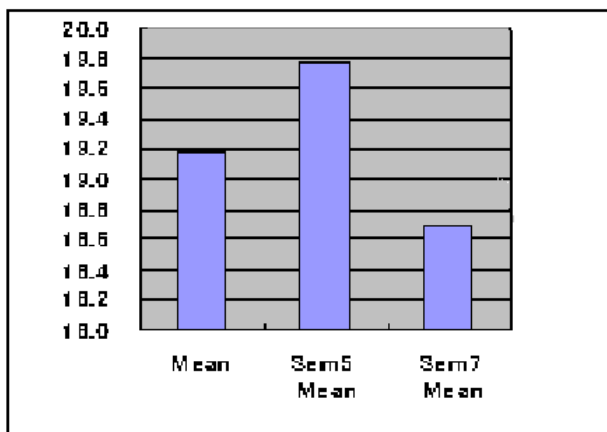
Tabel 17 menyajikan hasil tes mengenai nilai rata-rata (*mean*), persentase jumlah responden yang mendapat nilai yang sama dengan nilai rata-rata (*mean %*), dan tingkat penyebaran nilai responden (deviasi standar/*SD*). Ketiga macam angka tersebut disajikan dari kolom kiri ke kanan masing-masing mengenai seluruh responden, responden semester V dan responden semester VII.

Tabel 17 Mean, Mean % dan Deviasi Standar

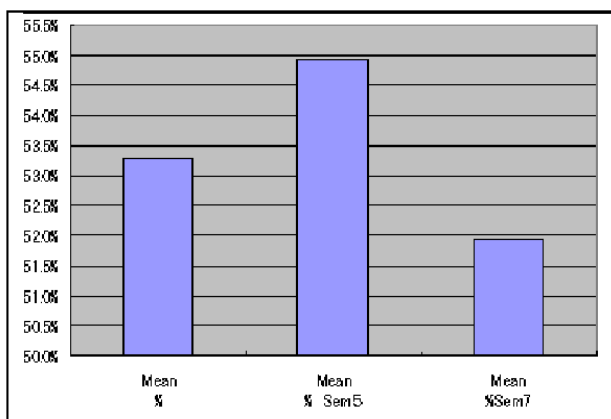
Seluruh Responden			Responden Sem V			Responden Sem VII		
Mean	Mean %	S.D	Sem V Mean	Sem V Mean %	Sem V S.D.	Sem VII Mean	Sem VII Mean %	Sem VII S.D
19.2	53.3%	4.74	19.8	54.9%	3.64	18.7	51.9%	5.49

Angka-angka pada tabel 17 di atas diolah menjadi bentuk grafik batang seperti pada gambar 1, 2 dan 3. Gambar 1 menunjukkan nilai rata-rata 60 responden 19.2(53.3% soal dari 36 soal dijawab secara tepat). Semester V menunjukkan nilai rata-rata yang lebih tinggi yaitu 19.8/36 (55% soal dijawab secara tepat) dari pada responden semester

Gambar 1



Gambar 2



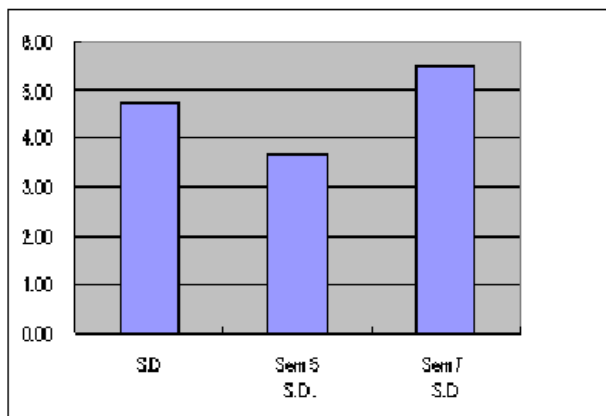
VII (18.7/36 atau 52% soal dijawab secara tepat).

Mean% pada gambar 2 memperlihatkan nilai responden semester V cenderung berkumpul (*converge*) secara lebih padat pada nilai rata-rata, yaitu 54.9% responden semester V mendapat nilai yang sama dengan nilai rata-rata. Sedangkan nilai responden semester VII

cenderung lebih terpecah (51.9% responden semester VII memperoleh nilai yang sama dengan nilai rata-rata), yang berarti nilai tersebar dari yang bernilai tinggi sampai yang bernilai rendah, dan hal tersebut berkonsekuensi menekan nilai rata-rata (lihat gambar 1).

Deviasi standar (*SD*) pada gambar 3 menunjukkan tingkat penyebaran nilai responden semester V yang lebih kecil dari pada tingkat penyebaran nilai kelompok responden semester VII. Semakin kecil angka *SD* berarti semakin kecil tingkat penyebaran nilai.

Gambar 3



Dari data pada gambar 1, 2 dan 3 dapat

diketahui bahwa tingkat penguasaan EMM pada kelompok responden semester V relatif secara merata menunjukkan tingkat penguasaan yang 'sedang-sedang'. Tingkat penguasaan EMM pada kelompok responden semester VII lebih beragam atau

tidak merata karena angka *SD* lebih tinggi dari pada kelompok responden semester V, walaupun hanya dilihat dari segi nilai rata-rata selisih nilai di antara kelompok tidak begitu besar (3%).

Melihat keseluruhan data, tingkat kesulitan menjawab soal EMM dapat dibagi ke dalam 5 tingkatan berdasarkan persentase jawaban tepat untuk setiap soal (daftar soal terlampir). Penulis secara arbitrer menggunakan lima ukuran⁵ sebagai berikut untuk

⁵ Sebagai istilah penunjuk ke lima ukuran sengaja digunakan kata kata yang mengindikasikan "kesan"

membagi tingkat kesulitan menjawab soal EMM. Huruf [x] bermakna angka persentase jawaban tepat.

Mudah	Relatif mudah	Agak sulit	Cukup sulit	Sangat sulit
$80 \geq x$ (%)	$80 > x \geq 60$ (%)	$60 > x \geq 40$ (%)	$40 > x \geq 30$ (%)	$30 > x$ (%)

Dengan menggunakan ke lima ukuran di atas, soal tes EMM dapat dikelompokkan seperti pada tabel 18 berikut.

Tabel 18 Tingkat kesulitan menjawab soal EMM berdasarkan ukuran persentase jawaban tepat

Tingkat Kesulitan	Persentase jawaban tepat	Nomor soal
Mudah	$80 \geq x$ (%)	2, 17, 23A
Relatif mudah	$80 > x \geq 60$ (%)	7, 8, 12, 14, 15, 19, 20, 23B, 28B
Agak sulit	$60 > x \geq 40$ (%)	3, 4, 6, 9, 11, 13, 16, 18, 23C, 25A, 25B, 27A, 27B, 28A
Cukup sulit	$40 > x \geq 30$ (%)	22A, 24, 25C, 26, 27C
Sangat sulit	$30 > x$ (%)	1, 5, 10, 21, 22B

Melihat uraian di atas dapat diketahui 2 hal yaitu, (1) di antara dua kelompok responden, yaitu responden semester V dan responden semester VII, terdapat perbedaan tingkat penguasaan EMM, dan (2) tingkat kesulitan menjawab soal EMM tidak sama di antara soal seperti terlihat pada tabel 18. Karena itu tingkat penguasaan EMM perlu dilihat pula untuk masing-masing kelompok dan masing-masing soal dengan cara memperlihatkan perbedaan serta kesamaan di antara kelompok responden

yang mungkin dirasakan responden. Sebagai istilah penunjuk ukuran tingkat kesulitan menengah digunakan istilah "agak sulit" karena nilai rata-rata berada di poin 53.3(per 100) dan nilai tersebut tidak dapat digolongkan sebagai nilai yang baik.

tersebut.

5 . 8 . 2 . 2 Perbedaan dan Kesamaan Tingkat Penguasaan EMM di Antara Semester

Pada butir 5.8.2.1 tingkat kesulitan menjawab soal untuk semua responden diukur dengan persentase jawaban tepat (lihat tabel 18). Untuk memperoleh gambaran tingkat penguasaan EMM yang akurat dan rinci, pada bagian ini diuraikan perbedaan dan kesamaan penguasaan EMM di antara semester.

Dalam hal persentase jawaban tepat terlihat perbedaan antara kedua kelompok. Terdapat 7 soal dengan persentase jawaban tepat di antara kelompok menunjukkan selisih di atas 20 %, di antaranya persentase jawaban tepat pada 4 soal (nomor soal 1, 3, 20 dan 28B) lebih tinggi untuk kelompok semester V dan 3 soal (23C, 25C dan 27C) lebih tinggi untuk kelompok semester VII. Selisih 20% tersebut jika dikonversikan ke nilai hasil t-tes, hampir sama dengan nilai di bawah 10 %. Pada umumnya nilai t-tes dibawah 1% dan 5 % dapat diartikan bahwa perbedaan di antara ke dua kelompok cukup signifikan. Namun penulis beranggapan bahwa selisih 20% (hampir sama dengan nilai t-tes $\leq 10\%$) pada persentase jawaban tepat di antara ke dua kelompok cukup besar dan perlu diperhatikan, sehingga diputuskan menggunakan data dengan nilai t-tes $\leq 10\%$ pula.

Disamping perbedaan seperti tersebut di atas perlu diperhatikan pula kesamaan antara kelompok. Kesamaan di antara kelompok dalam menjawab soal dapat dilihat dari nilai kolektif masing-masing kelompok responden terhadap masing-masing soal. Tabel 19 memperlihatkan perbedaan dan kesamaan di antara kedua kelompok pada persentase jawaban tepat 5 terbaik dan 5 terburuk. Tabel 20 memperlihatkan perbedaan di antara kedua kelompok pada soal-soal dengan nilai t-tes antara kedua kelompok menunjukkan nilai masing-masing $\leq 1\%$, $\leq 5\%$ dan $\leq 10\%$. Nilai t-tes tersebut bila dilihat dengan selisih persentase jawaban tepat, masing-masing menunjukkan selisih kurang lebih 30 poin untuk nilai $\leq 1\%$, kurang lebih 24 poin untuk nilai $\leq 5\%$ dan kurang lebih 20 poin untuk nilai $\leq 10\%$. Pada makalah ini nilai t-tes $\leq 10\%$ dianggap cukup signifikan.

Tabel 19 Perbedaan dan kesamaan pada persentase jawaban tepat 5 terbaik dan 5 terburuk

Persentase Jawaban Tepat	Perbedaan / Kesamaan	Nomor Soal
5 terbaik	Sem V lebih baik	15, 28B
	Sem VII lebih baik	17, 23B
	Kedua-duanya baik	2, 23A, 19
5 terburuk	Sem V lebih baik	1, 22B
	Sem VII lebih baik	25C, 26, 27C
	Kedua-duanya tidak baik	5, 10, 21

Tabel 20 Perbedaan di antara kedua kelompok pada soal-soal dengan nilai t-tes

nilai t-tes $\leq 1\%$	Sem V lebih baik	1,
	Sem VII lebih baik	25C
nilai t-tes $\leq 5\%$	Sem V lebih baik	20, 28B
	Sem VII lebih baik	23C,
nilai t-tes $\leq 10\%$	Sem V lebih baik	3

Tabel 21 sebagai hasil kombinasi data tabel 18 dengan tabel 19 menunjukkan tendensi pemerolehan nilai di antara kedua kelompok. Dari tabel 21 dapat diketahui misalnya, soal nomor 2, 23A dan 19 merupakan soal yang mudah bagi seluruh responden, sedangkan soal nomor 5, 10 dan 21 adalah soal yang sangat sulit bagi seluruh responden. Soal nomor 15, 20 dan 28B merupakan soal yang relatif mudah bagi seluruh responden, tetapi kelompok semester V lebih menguasai soal ini. Dalam kesempatan ini tidak disinggung lebih lanjut mengenai data lain yang terdapat pada tabel 21 ini di bawah.

Tabel 21 Perbedaan dan kesamaan di antara kedua semester dalam pemerolehan nilai

Tendensi pemerolehan nilai			
Tingkat kesulitan menjawab soal bagi kedua kelompok	Nilai cenderung sama pada kedua kelompok	Nilai kelompok semester V lebih tinggi	Nilai kelompok semester VII lebih tinggi

Mudah	2, 23A dan 19		17
Relatif mudah		15, 20 dan 28B	23B
Agak sulit		3	23C
Cukup sulit			25C, 26 dan 27C
Sangat sulit	5, 10 dan 21	1 dan 22B	

Keterangan: Angka pada sel menunjukkan nomor soal dan sel yang diwarnai dengan warna abu-abu bermakna bahwa tidak terdapatnya nomor soal yang diisi pada sel tersebut.

Data pada tabel 21 di atas mengindikasikan tingkat penguasaan yang berbeda di antara kedua kelompok untuk tipe-tipe soal tertentu, walaupun pengamatan ini terbatas pada data yang dimuat pada tabel 21 tersebut. Untuk mengetahui tipe soal tersebut tabel 22 menyajikan data mengenai soal-soal yang persentase jawaban salah melampaui persentase jawaban tepat secara signifikan.

Mengenai persentase jawaban salah, pada 12 soal dari 36 soal terlihat persentase jawaban yang salah melampaui jawaban yang tepat. Mengenai 4 soal persentase jawaban salah hanya terdapat satu macam, karena tidak terdapat perbedaan di antara kedua kelompok. Yang perlu diperhatikan adalah jika kedua kelompok memilih jawaban salah yang sama, tetapi dengan persentase yang berbeda atau jika kedua kelompok memilih jawaban salah, tetapi jawaban salah tersebut berbeda. Begitu pula jika salah satu kelompok memilih jawaban tepat, tetapi satu kelompok

lainnya memilih jawaban salah. Hal-hal seperti itu perlu diperhatikan untuk memperlengkap analisis mengenai tingkat penguasaan EMM.

Tabel 22 Pilihan jawaban kedua kelompok responden untuk soal-soal dengan persentase jawaban salah yang melampaui persentase jawaban tepat

No. Soal	Pilihan serta Persentase Jawaban Salah/Tepat Kelompok Responden
1	40.7% Sem V dan VII 63.5% memilih ①(salah)
5	63.0% Sem V dan 48.5% Sem VII memilih ①(salah)
6	48.1% Sem V dan 39.4% Sem VII memilih ③(salah)
10	55.6 Sem V memilih ④(salah), 48.5% Sem VII memilih ③(salah)
21	40.7% Sem V memilih ②(salah), 38.3% Sem VII memilih ②(salah) dan 35.0% Sem VII memilih ③(salah)
22A	56.7% dari seluruh responden memilih ①(salah)
22B	38.3% dari seluruh responden memilih ①(salah), 33.3% memilih ②(salah)
23C	40.7% Sem V memilih ③(salah), sedangkan 66.7% Sem VII memilih ④(tepat)

25B	44.4% Sem V memilih ③(salah), sedangkan 54.5% Sem VII memilih ②(tepat)
25C	51.9% Sem V memilih ②(salah), sedangkan 48.5% Sem VII memilih ③(tepat)
26	45.0% seluruh responden memilih ②(salah)
27C	48.3% seluruh responden memilih ①(salah)

Keterangan: Angka ① sampai dengan ④ pada kolom bermakna nomor jawaban.

Perbedaan yang terlihat di antara kedua kelompok harus dipilah-pilah supaya data yang diperlukan untuk penelitian ini tidak tercampur dengan hasil data yang bersifat semu seperti nilai rendah salah satu kelompok terhadap soal tertentu yang disebabkan oleh tidak sempat diajarkannya materi mengenai soal itu kepada kelompok tersebut dan sebagainya. Perbedaan yang perlu diperhatikan adalah misalnya jika salah satu kelompok lebih mengandalkan pengetahuan dasar gramatikal karena belum cukup mendapatkan pengetahuan pragmatis atau jika salah satu kelompok lebih mengandalkan pengetahuan pragmatis dan mengabaikan pengetahuan gramatikal.

Kesamaan yang perlu diperhatikan untuk mengetahui perbedaan dan kesamaan tingkat penguasaan EMM adalah jenis kesalahan yang terdapat pada kedua kelompok secara bersama-sama atau jenis soal di mana kedua kelompok memperoleh nilai yang

tinggi.

5 . 8 . 2 . 3 Penguasaan Responden Terhadap Soal EMM

Pada butir 5.8.2.3 berikut diuraikan masalah penguasaan responden terhadap tipe-tipe tertentu soal EMM dengan memperhatikan inti ke 4 hipotesis yang telah disebutkan pada bagian pendahuluan. Berdasarkan data dan uraian di atas uraian pada 5.8.2.3 ini terbagi atas beberapa pokok bahasan, yaitu mengenai penguasaan responden terhadap (1) aturan dasar EMM serta fungsi partikel kasus dalam EMM, (2) “arah acuan benefit (*onkei no houkou*)” dan “*shiten*”⁶, (3) elipsis argumen kalimat, (4) klausa prenominal (*rentaishuushokusetsu*) dan topik, (5) hubungan interpersonal. Penguasaan yang dimaksud di sini terbatas pada tingkat penguasaan yang diukur dengan persentase jawaban yang tepat atau salah.

5 . 8 . 2 . 3 . 1 Penguasaan Responden Terhadap Aturan Dasar EMM serta Fungsi Partikel Kasus dalam EMM

Soal nomor 1, 2, dan 17 merupakan soal yang berkaitan dengan penguasaan aturan dasar EMM, yaitu antara lain batasan-batasan penggunaan “-(te)ageru”, “-(te)yaru”, “-(te)morau” dan “-(te)kureru” mengenai siapa partisipan yang dapat menduduki posisi kasus nominatif atau agen sebagai pemberi benefit dan siapa

⁶ Pengertian ‘*shiten*’ terdapat beberapa pengertian. Sebagai istilah dalam bahasa Inggris ‘*viewpoint*(*shiten*),’*perspective*(*kanten*) atau ‘*vantage point*’ (Yoshimura 2002). Selain ‘*shiten*’ dan ‘*kanten*’, ada pula istilah ‘*shiza*’. Di antaranya yang paling banyak digunakan adalah ‘*shiten*’ dan pada makalah ini digunakan istilah ‘*shiten*’ yang lazim digunakan dalam pendidikan bahasa Jepang tanpa memperinci makna kata tersebut.

partisipan yang dapat menduduki posisi penerima benefit. Penguasaan responden terhadap aturan dasar EMM secara garis besarnya dapat disimpulkan sebagai berikut.

- Sebagian besar responden tidak memahami penggunaan “-(te)yarū” terhadap manusia (soal 1), sedangkan penggunaan terhadap tanaman (soal 17) termasuk soal yang ‘mudah’.
- Kehadiran kata ‘*watashi wa*’ (soal 2) dalam kalimat menjadi kata kunci untuk menentukan agen (pemberi benefit). Demikian pula kehadiran “NO” pada “*Dewi san no nimotsu wo*” sebagai pemarah pemilik barang tersebut membantu menentukan penerima benefit. Dilihat dari urutan kata pemberi benefit dan penerima benefit searah dengan arah acuan benefit seperti soal 2 mudah dipahami.

Soal nomor 3, 4, 5, 6, 11, 13, 16, 19, 20, 22A, 27A dan 27B merupakan soal yang berkaitan dengan penguasaan partikel kasus “GA”, “WO”, “NI” “NO⁷” dan “KARA”(mengenai partikel “KARA” diuraikan di butir 2.3.3). Permasalahan penguasaan partikel kasus berkaitan pula dengan penguasaan elipsis argumen dan akan disinggung pada butir ini. Berdasarkan pengamatan atas soal-soal di atas permasalahan ini dapat disimpulkan sebagai berikut.

- Penguasaan terhadap pemarah agen “GA” (soal 9, 10, 12, 13, 14, 23C)diuraikan di bagian uraian klausa prenominal .

⁷ Definisi partikel “NO” sebagai partikel kasus di antara pakar bahasa Jepang berbeda. Pada umumnya partikel “NO” yang dapat diklasifikasikan sebagai partikel kasus adalah “NO” sebagai pemarah kasus genitif saja.

- Penguasaan terhadap pemarkah pasien (objek) “WO” (soal 3, 16,19, 20, 27B) di antara 50%-70% dan lebih dikuasai dari pada “NI” sebagai pemarkah pasien(objek).
- Penguasaan terhadap pemarkah pasien(objek) “NI”(soal 4, 11, 13) relatif lebih tinggi dari pada penguasaan “NI” sebagai pemarkah agen. Pada soal 9 objek(serta “NI”mengalami elipsis, tetapi kehadiran kata kunci “sensei” memudahkan menemukan jawaban.
- Penguasaan terhadap pemarkah agen “NI”(soal 5, 6, 22A 27A) dapat dikatakan rendah, terutama kalimat soal yang mengalami elipsis argumen pasien (soal 5).
- Penguasaan terhadap pemarkah kepemilikan “NO”(soal 16, 19) relatif baik.

5 . 8 . 2 . 3 . 2 “Arah Acuan Benefit (*Onkei no Houkou*)” dan “*Shiten*”

Konsep “arah acuan benefit (*onkei no houkou*)” dan konsep “*shiten*” adalah dua

konsep yang berlainan, namun kedua konsep tersebut

dapat

gambar 4(Yamada 2000) dipadukan seperti pada

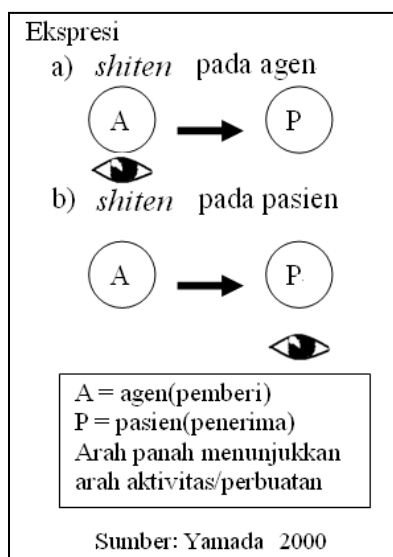
Gambar 4. Pemaduan kedua konsep ini bermanfaat

untuk memahami EMM, karena kedua konsep dapat

diproyeksikan pada struktur kalimat. “-Teageru” merupakan

ekspresi a) dan “-tekureru” merupakan ekspresi b).

Sedangkan “-temorau” merupakan ‘kebalikan’ dari b), yaitu



P(pasien) sebagai subjek dan A(agen) ada bagian belakang kalimat. Arah panah menunjuk P dan “*shiten*” ada di P.

ng dikaitkan dengan konsep *uchi-soto* (lingkup dalam-luar). Perbedaan di antara kedua adalah “*shiten*” dapat di proyeksikan, sedangkan “*uchi-soto*” merupakan konsep yang bersifat kultural dan tidak dapat dipahami pada dimensi ke 1 seperti struktur kalimat. Konsep “*uchi-soto*” akan disinggung pada 5.8.2.3.5 mengenai hubungan interpersonal.

Dilihat dari segi pemahaman responden mengenai “arah acuan benefit” dan konsep “*shiten*”, tingkat kesulitan soal “-tekureru”, soal 12, 14, dan 28B termasuk ‘relatif mudah’. Pada soal 12 dan 14 terdapat partikel “GA” sebagai pemarkah agen yang mudah dikenali responden. Kehadiran kata “*anata ga*”, “*watashi no*” atau “*arigatou*” pun mudah menemukan “*shiten*” dan arah panah. Soal “tekureru” lain yaitu 3, 4, 9, 11 dan 16 menunjukkan tingkat kesulitan ‘agak sulit’. Di antara soal tersebut ada agen dimarkahi “GA” maupun “WA”. Namun perbedaan pemarkah tidak mempengaruhi hasil tes. Semua soal “-tekureru” memiliki agen persona ke3 sehingga tingkat kesulitan menjawab secara tepat ‘agak sulit’ merata untuk soal-soal itu.

Soal yang secara murni menanyakan penggunaan “-teageru” terdapat hanya satu soal, yaitu soal 2⁸ dan merupakan soal yang ‘mudah’. Soal 19 dan 20 “relatif

⁸ Soal 2 selain “ageru” sebagai jawaban tepat, dapat juga dijawab “kureru” jika diartikan sebagai benefaktif tidak langsung. (cf. Yamada 2000) Dalam benefaktif tidak langsung arah perbuatan dengan arah acuan benefit tidak sinkron seperti pada kalimat “*Katou san wa watashi no tame ni utatte kureta*” (Yamamoto 2002)

mudah”, namun kedua soal tersebut lebih tepat untuk menganalisis unsur lain.

Di antara soal mengenai “-tomorau”, soal 22A dan 22B ‘sulit’ dan ‘sangat sulit’, karena terdapat unsur yang mengalami elipsis dan mengandung unsur hubungan interpersonal, sehingga “arah acuan benefit” dan “*shiten*” sulit dikenali. Sedangkan soal 7, 8, dan 15 merupakan soal yang ‘relatif mudah’. Soal 7 dan 8 adalah soal *keigo* (ragam bahasa hormat) dan terdapat kata “*sensei*”, “*nihongo wo oshieru*” dan “*jisho*” yang sudah akrab dengan responden sehingga mudah memilih jawaban yang tepat.

Soal (26 dan 28A) merupakan kalimat bersusun dengan kata “-tara,~”. Responden kurang menyadari terjadinya perubahan fase (phase) di antara klausa depan dengan klausa belakang yang menyebabkan perubahan “*shiten*”⁹ yang membawa pergantian agen. Pada kedua soal argumen agen mengalami elipsis. Soal 28A agak mudah dari pada 26 karena terdapat partikel “YO” sebagai pemisah wacana, sehingga dapat mengetahui posisi “*shiten*” dan agen yang dielipsis.

5 . 8 . 2 . 3 . 3 Elipsis Argumen Kalimat

Argumen yang mengalami elipsis pada kalimat soal adalah agen (pemberi benefit) dan pasien (penerima benefit). Pemberi dan penerima benefit terdiri dari persona 1, persona 2 dan persona 3. Jika tidak mengalami elipsis argumen seperti soal 7,

⁹ Nakahama dan Kurihara (2006) dengan mengacu ke definisi Kuno (1978) yang direvisi Yamada (1985), yaitu bahwa pada fase tunggal hanya terdapat satu camera angle (*shiten*) saja, mengatakan pembelajar harus disadarkan akan perubahan fase (*kyokumen*) yang memungkinkan perubahan pada *shiten*.

3, 11, dan 27B soal menjadi 'mudah' dan 'relatif mudah'. Berikutnya hasil pengamatan penulis atas tingkat kesulitan pada soal yang argumen mengalami elipsis.

- Argumen agen/pemberi benefit baik persona 1 maupun persona lainnya mengalami elipsis (19, 20 dan 28B) merupakan soal yang 'mudah' atau 'relatif mudah'. Namun seperti diuraikan di atas elipsis argumen agen baik persona 1 maupun persona lainnya pada kalimat bersusun "-tara~" (26 dan 28A) 'cukup sulit' dan 'agak sulit'. Karena pada soal 26 argumen agen pada kedua klausa dielipsis, 48% responden semester V dan 42% responden semester VII memilih jawaban nomor 2, pertanda responden tidak menyadari perubahan pada "*shiten*" dari pembicara ke orang lain.

- Argumen penerima benefit (persona 1) yang mengalami elipsis(6, 9, 15 dan 28B). Soal 6 dan 9 'agak sulit'. Soal 15 'relatif mudah' karena terdapat partikel "KARA" yang bagi penutur bahasa Indonesia berfungsi mengindikasikan "arah acuan benefit" yang mengarah ke subjek (penerima) seperti pada kalimat pasif bahasa Indonesia sehingga mudah mengetahui penerima benefit. Soal 28B 'relatif mudah' karena terdapat pemarkah wacana

5 . 8 . 2 . 3 . 4 Klausa Prenominal (*Rentaishuushokusetsu*) dan Topik

Pemahaman responden terhadap klausa prenominal (*rentaishuushokusetsu*), menurut pengamatan penulis, berhubungan dengan beberapa hal, yaitu pemahaman gramatikal terhadap "GA", elipsis argumen, dan pemahaman pada partikel topik "WA".

Pada 6 buah kalimat soal, agen dimarkahi “GA”. Soal kalimat 12 dan 14 dengan bentuk “~ga –tekureru” relatif mudah walaupun penerima persona 1 tidak dimarkahi “NI” (kasus datif/kasus obyektif). Sedangkan soal 13 yang tidak mengalami argumen apa pun termasuk ‘agak sulit’. Hal ini perlu mendapat perhatian dari segi gramatikal.

Kalimat soal 9 dan 23C dengan “~ ga –tekudasaru” termasuk ‘agak sulit’. Soal 9 dan 23C mengalami elipsis pada argumen penerima persona 1. Jika pemahaman fungsi “GA” baik, dapat secara mudah memilih “-tekudasaru”. Pada soal 9, 51.9% semester V memilih “-tesashiageru”. Hal ini menunjukkan kekurangan pemahaman semester V terhadap elipsis argumen penerima persona 1 yang menjadi penentu “arah acuan benefit.

Pada 23C kelompok semester VII 66.7% memilih jawaban yang tepat, sedangkan 40.7% semester V lebih memilih jawaban yang salah “-teitadaku”. Jika dibandingkan dengan hasil tes pada soal (bukan klausa prenominal) dengan “~ni –teitadaku” (7, 8 dan 23B) yang ‘relatif mudah’ atau dengan soal 23 A yang ‘sangat mudah’, dapat diasumsikan bahwa responden cenderung langsung memilih kata “-teitadaku” tanpa memperhatikan fungsi partikel kasus, jika dalam kalimat soal terdapat kata “*sensei*” atau ragam kata honorifiks¹⁰. Lagi pula dalam pengajaran bentuk permohonan, bentuk yang paling sering digunakan adalah “-teitadakemasenka”,

¹⁰ Kabatani (2001) menganjurkan supaya ‘tokoh’ “sensei” tidak dimunculkan sampai mengajarkan EMM dalam ragam honorifiks. Namun jika “sensei” terlalu sering digunakan dapat mengganggu pemahaman EMM secara menyeluruh.

sehingga pemahaman pada “-tekudasaru” menjadi kurang.

Soal nomor 10 termasuk ‘sangat sulit’. 55.6% responden semester V memilih “-tekureru” dan 48.5% responden semester VII memilih “-temorau”. Dari kesalahan ini dapat diasumsikan bahwa kelompok semester V tidak mengetahui agen yang dimarkahi “WA” dan hanya melihat “GA” yang memarkahi agen dalam klausa prenominal, sehingga hanya menyelesaikan bagian klausa prenominal saja dengan memilih “-tekureru”. Sedangkan kelompok semester VII tidak memperhatikan hubungan makna kata antara “*tsuma* (istri)” dan “*sukaato* (rok)”, tetapi hanya memperhatikan makna kata “*watashi* (saya)” dan “*tanjoubi* (hari ulang tahun)” untuk memilih “-temorau”, dan tidak menyadari kejanggalan makna kalimat yang menjadi “suami dibelikan rok”. Pada soal 15 terdapat “WA”, tetapi tidak terdapat “GA”. Pada soal 15 terdapat “KARA” yang memudahkan memahami “arah acuan benefit” sehingga termasuk ‘ralatif mudah’.

5 . 8 . 2 . 3 . 5 Hubungan Interpersonal

Hubungan interpersonal yang diperhatikan dalam menggunakan EMM adalah hubungan antara partisipan, dan tidak terbatas hubungan pembicara dengan lawan bicara. Unsur yang berkaitan dengan hubungan interpersonal adalah pada umumnya dalam bahan ajar tingkat pemula tidak terdapat materi dalam situasi persona 1 menawarkan sesuatu langsung kepada persona 2 untuk menghindari memberi kesan “*onkisegamashii* (pembicara terlalu menekankan segi benefit yang ia berikan kepada lawan bicara)”. Walaupun demikian pada soal 24 dan 25B banyak responden memilih

“ageru”.

Untuk memahami penggunaan “-teageru” harus memperhatikan fungsi “-teageru” yang pragmatis, yaitu mengkonfirmasi atau menjalin hubungan akrab¹¹. Secara pragmatis situasi soal 28A dimungkinkan penggunaan “ageru”, tetapi mungkin terdapat kendala dalam membuat materi ajar seperti itu. Penggunaan “-teageru” pada soal 27B berdasarkan perhitungan atas hubungan ketiga partisipan yang satu sama lain cukup akrab dan keakrabannya tidak terganggu dengan penggunaan “-teageru”. Kalimat 27A dan 27B adalah serangkaian percakapan yang mengandung unsur “*shiten*” selain unsur pragmatis tersebut. Namun “*shiten*” pembicara (Nisa) berbeda di antara kedua kalimat. Pada kalimat 27A “*shiten*” terdapat pada lawan bicara, Rani, sebagai penerima benefit yang dielipsis dan pada kalimat 27B “*shiten*” terdapat pada kakak Nisa sebagai pemberi benefit. Konsep kultral “*uchi-soto*” sering digunakan untuk menjelaskan situasi pragmatis ini, tetapi konsep “*uchi-soto*” tidak dapat secara langsung menentukan struktur kalimat seperti “*shiten*”. Konsep “*uchi-soto*” tidak dapat menjelaskan hubungan partisipan dalam percakapan pada 27B, karena jika Rani diganti dengan adik Nisa, ketiga partisipan merupakan saudara dan sulit menjelaskan dengan konsep “*uchi-soto*”, tetapi dapat dijelaskan dengan konsep “*shiten*”.

Bentuk permohonan dan pertanyaan lebih dikuasai (*teitadaku*) karena selalu

¹¹ Hashimoto(2001) mengusulkan prinsip keakraban, yaitu “-teageru” mengharuskan pihak yang terkait saling membalas budi. Hashimoto membuat prinsip tersebut dengan berdasarkan *Tact Maxim* Leech (1987).

berdampingan dengan *sensei* sebagai tokoh yang diminta, mahasiswa lebih memilih itadaku, tetapi sebaliknya kudasaru kurang. 23A 23B

5 . 8 . 2 . 4 Uji Hipotesis

Berdasarkan uraian di atas berikut ini sebagai hasil uji hipotesis.

Hipotesis:

(1) *Pembelajar kurang menguasai kasus obyektif kecuali kasus obyektif yang ditandai dengan partikel kasus 'ni'.*

Di antara 8 soal yang mengacu pada hipotesis (1), penggunaan “WO” sebagai kasus obyektif terdapat 6 buah dan penguasaannya relatif baik (tingkat persentase jawaban tepat $80 > X \geq 40$).

(2) *Pembelajar secara berlebihan menggunakan auxiliary “-teageru”.*

Dari pengamatan data soal no.18,21,24 dan 25 dapat dikatakan penggunaan auxiliary “-teageru (-tesashiageru)” yang secara berlebihan terbukti.

(3) *Pembelajar tidak menguasai konsepsi ‘uchi dan soto (lingkup dalam dan luar bagi penutur atau bagi partisipan dalam peristiwa)’.*

Dari pengamatan data soal 4,13,22B dan 27C penguasaan konsepsi “uchi-soto” pada pembelajar yang rendah atau sangat rendah terbukti. Namun perlu diingat bahwa soal yang menguji konsep “uchi-soto” secara tunggal tidak dapat dibuat dan selalu berkaitan dengan unsur lain seperti diuraikan di butir-butir di atas pada bagian 2 ini.

(4) *Pembelajar kurang menggunakan EMM pada jenis kalimat tertentu yang perlu terdapat pernyataan rasa terima kasih atau rasa bersyukur, tetapi hanya menggunakan bentuk deklaratifnya saja.*

Dari pengamatan data soal 10, 12, 14, 16, 23A, 23B, 23C, 25A dan 25C, dapat dikatakan bahwa dari nomor 10 sampai 23C responden yang memilih jawaban yang tidak menggunakan EMM sangat sedikit (tidak melebihi 10 %), sedangkan pada soal 25A terdapat 10% dan pada 25C terdapat 17% responden yang tidak menggunakan EMM. Dengan demikian hipotesis (4) kurang terbukti. Responden mengalami kebingungan di antara EMM dengan ragam honorifiks seperti teramati pada soal 25C.

5 . 8 . 3 . Penutup

Bagian penutup menguraikan hal-hal yang mungkin bermanfaat bagi pendidikan bahasa Jepang, terutama untuk pengajaran EMM.

1. Untuk mengajarkan EMM dengan klausa prenominal, perlu memperbanyak latihan yang menggunakan pemarkah topik “WA” dan pemarkah agen “GA” secara bersama-sama. Selain itu untuk soal latihan perlu diperhitungkan pula kosakata yang menjadi penentu “arah acuan benefit.”
2. Perlu mengajarkan perubahan “*shiten*” melalui kalimat bersusun dengan “-tara~”.
3. Secara sepintas tingkat penguasaan “-temorau”-teitadaku” terlihat tinggi, tetapi hal tersebut disebabkan oleh banyaknya latihan dengan kata-kata seperti “*sensei*” dan

“*watashi*”. Begitu pula bentuk permohonan “-teitadakemasenka”. Latihan perlu memperhitungkan hubungan manusia di luar sekolah.

4. Pembelajar kurang menguasai “-tekureru/-tekudasaru” secara gramatikal.
5. Pembelajar perlu dibekali konsep “arah acuan benefit” dan “*shiten*” secara bersama-sama supaya tidak mengalami kebingungan pada kalimat yang “arah acuan benefit” sama tetapi “*shiten*” berbeda seperti di antara “ageru/sashiageru” dengan “kureru/kudasaru”. Perlu diperbanyak latihan dengan argumen dielipsis.
6. Untuk mengajarkan “-teageru” harus memperhatikan fungsi “-teageru” yang pragmatis, yaitu mengkonfirmasi atau menjalin hubungan akrab, selain mengajarkan batasan-batasan penggunaan seperti selama ini dilakukan. Namun untuk mengajarkan “-teageru” dalam fungsi pragmatis di atas diperlukan kehati-hatian supaya pembelajar tidak mempunyai salah anggapan bahwa “-teageru” digunakan untuk menjalin hubungan akrab. Dalam artian luas EMM bahasa Jepang memiliki fungsi sebagai “*taiguuhyougen*” yang menentukan hubungan interpersonal¹².

6 属性による差異

この調査を行う際、調査協力者には所属する Semester、性別、能力試験についても回答をいただいた。ここではその属性によって違いがあるかを検討していきたい。

¹² cf. Ide, Risako., Imu, Yonchoru(2001)

6.1 Semester5 と Semester7 の比較

6.1.1 全体の傾向

Semester 5 と Semester 7 の結果は以下のとおりである。

t a b e l 23 Semester 別結果

Semester	Sem5	Sem7
人数 (人)	140	142
平均点 %	52.1%	51.6%
標準偏差 (S.D.)	4.87	5.83
最高得点 (Max)	35	32
最低得点 (Min)	8	7

Semester 7 のほうがやや点数が低いものの、平均点はほぼ同じであった。Semster 5 と Semester 7 の間で T 検定 (両側検定) を行った結果、有意な差は見られなかった。つまり、Semester 5 から Semester 7 にかけて、授受表現に関しては習得が進んでいないと言えよう。注目すべきは最高点と最低点の差が Semester 5 では 27 点、Semester 7 までは 25 点と、Semester 5 のほうが差が大きいのにもかかわらず、標準偏差では Semester 7 のほうが高いということである。標準偏差の数値が大きいほど、平均点からのばらつきが多いため、Semester 7 の学習者のほうが成績上位者と下位者に大きく分かれていることがわかる。

次に問題の正答率の差に注目してみる。Semester 5 と Semester 7 の平均値を比べた結果、Semester 5 のほうが平均点が高かった問題は 20 問、Semester 7 のほうが高かった問題は 16 問であった。T 検定を行った結果、1%水準で有意な項目が 2 項目、5%水準で有意な項目が 1 項目みとめられた。

Tabel24

問題	正解	Sem5 正答率 (%)	Sem7 正答率 (%)	Sem7-Sem5
1	寝る前にいつもむすめに本を読んでやります。	52.1	27.5	-24.7 **
23B	先生、もう連絡していただけましたか。	23.6	36.6	13.0 *
25A	友人に日本語で手紙を書いたんですが、ちょっと直してもらえませんか。	36.4	60.6	24.1 **

*は 5%水準で有意、**は 1%水準で有意

6.1.2 大学ごとの比較

table 25 各大学の Semester 別結果

	Semester	人数	平均	標準偏差	最高得点	最低得点
--	----------	----	----	------	------	------

		(人)	点 %	(S.D.)	(Max)	(Min)
UNPAD	Sem5	27	55.1%	3.70	30	13
	Sem7	33	51.4%	5.82	32	12
UPI	Sem5	34	53.6%	3.76	26	9
	Sem7	22	45.2%	4.12	24	10
STBA	Sem5	35	46.5%	3.32	24	11
	Sem7	39	52.6%	5.79	30	7
UKM	Sem5	21	55.4%	7.68	35	10
	Sem7	33	58.5%	6.53	32	9
UNIKOM	Sem5	9	42.0%	5.69	27	8
	Sem7	12	43.5%	4.03	25	9
Pasim	Sem5	8	51.0%	3.25	23	14
	Sem7	3	44.4%	6.93	24	12

6 大学中、Semester 5 のほうが得点が高かった大学が 3 大学、Semester 7 のほうが得点が高かった大学が 3 大学であった (Tabel25 参照) 。各大学ごとに Semester 5 と Semester 7 の間で T 検定を行った結果、UPI で 1 %水準、STBA-YAPARI で 5 %水準の有意であった。このことから、UPI は 4 年生になると、成績が落ちることが証明された。また、STBA では 4 年生になると習得が進んでいる可能性が高いことが証明された。それ以外の大学では特に 3 年生から 4 年生へ習得が進んでいない。

標準偏差を見ると、UKM以外の5大学では4年生のほうが数値が高い。このことから4年生はクラス内のレベル差が高いことがわかる。おそらく4年生になると日本語の授業が減ることから、自律的に学習する学習者とそうでない学習者の差が顕著に現われるのではなかろうか。また、UKMは3年生、4年生ともに非常に数値が高いことから、レベル差によるクラスコントロールの難しさを予想させる。なお、PASIMは4年生の協力者が3名のみであったため、データの信頼性は低いが、参考値として掲載した。

Table26 T検定で有意差が表れた項目

	1	6	7	9	11	13	15	16	18	20	21	23A	23C	24	25B	25C	27A	27B	28B
UNPAD	> **									> *			< *			< **			> *
UPI	> **	> **			> **	> **	> *	> *			> **				< **			< **	
STBA		< *	< **	< *					< **			< *		< **				< **	
UKM	> **			< *															
UNIKOM											< *								

>は「Semester5のほうが平均点が高い」、<は「Semester7のほうが平均点が高い」を表す。

次に項目別にSemester 5とSemester 7の間で有意であった項目を見てみる。T検定の結果はTable26のとおりである。

Semester 5のほうが1%、あるいは5%水準で有意に高いとされた項目は述べ11項目、Semester 7のほうが1%、あるいは5%水準で有意に高いとされた項目は述べ

13項目であった。この中で特徴的なのは Semester 5 のほうが高い項目が問題 18 までに大部分が含まれているのに対し、Semester 7 のほうが高い項目は問題 18 以降に非常に多いことである。これは、問題 1 から問題 17 までは基本的な構文を問うものが多いのに対し、問題 18 以降は会話文の中で、コンテキストを読まなければならない問題になることが大きな要因であると思われる。

つまり、3 年生は基本的な構文はよく理解しているが、コンテキストを読み込む能力が未発達であり、4 年生は基本的な構文を忘れてしまっているものの、コンテキストを読み込む能力は発達していることがわかる。多くの大学で、3 年生は基礎文型を習ってから間もないこと、4 年生になると文法の授業は減り、読解の授業が増えることが一因であろう。

6.2 性別による違い

男子学生の平均点は 49.4% (標準偏差 5.29)、女子学生の平均点は 53.0% (標準偏差 5.37) であり、やや女子学生のほうが高かった。男子学生と女子学生の間で T 検定を行った結果、6% であり、有意傾向を示すにすぎなかった。項目別には特に傾向は見られなかった。

6.3 能力試験による違い

1 級、2 級はデータ数が少なく、また未合格者、未受験者はそのレベルにばらつきがある可能性も高いため、ここでは 3 級合格者と 4 級合格者についてのみ検証する。

Tabel27 3級および4級合格者の結果

日本語能力試験	3級	4級
人数(人)	125	71
平均点 %	55.6%	47.8%
標準偏差(S.D.)	5.2	4.0
最高得点(Max)	34	29
最低得点(Min)	9	9

3級合格者と4級合格者の間でT検定を行った結果、0.01%水準で有意であり、3級合格者のほうが授受表現については習得が進んでいることが明らかになった。

項目別に見てみると1%水準、あるいは5%水準で有意であった項目は、問題1、2、7、9、12、18、19、21、24、25A、25B、25C、27A、28A、28Bであった。その中で25C以外は3級合格者のほうが得点が高かった。

唯一4級合格者の得点が高かった25C「きのうの手紙、もう(①読みましたか ②お読みになりましたか ③読んでいただけましたか)」では「②お読みになりましたか」を選んでしまった3級合格者が多かった。3級合格者のほうが尊敬語を意識してしまったことが原因ではなかろうか。有意な差ではなかったが、同様の問題である23B「先生、もう(①連絡しましたか ②連絡なさいましたか ③連絡していただけましたか)」でも3級合格者は「②連絡なさいましたか」を選んでいたため、4級合格者

のほうが得点が高かった。

7. 考察

これまでのデータをもとに仮説を検証していく。

7.1 仮説1の検証

対象格は二格以外は未定着であるとの仮説は特に傾向は見られなかった。比較的ノ格（問題2、19、16）の正答率が高かったものの、問題5「友達に宿題を手伝ってもらわないでください」では「あげないでください」を選んでいった学習者が非常に多かった。「あげないでください」の場合、「友達の宿題」となるため、結局ノ格についてきちんとしているとは言いがたい。

つまり、学習者は対象格をもとに正答を選んでいるわけではなく、自分なりにコンテキストを作り上げ判断していると言えよう。このことから文法的制約がきちんと定着していない可能性が高い。導入、練習の際、助詞が「あげる、くれる、もらう」のマーカーとなることを教師がきちんと明示しておく必要がある。

7.2 仮説2の検証

次に「～てあげる」の過剰使用の可能性を検討してみる。

問題18、21、24A、25Bの中で正答率が50%を越えたものはなく、「～てあげる」の過剰使用が起こっていることがデータから読み取れる。特に「～てさしあげ

る」が選択肢に含まれる場合、ほとんどの学習者がそれを選んでいた。

実は「～てさしあげる」の用法については日本国内でも現在揺れており、正用であると述べる研究者も多いため、完全な誤用であるとは言いがたい。ただし、たとえ「～てさしあげる」が正用だとしても、問題24Aのように「先生、私が読んでさしあげます」は日本語としては受け入れがたい。「あなたのためにやってあげるから、どうぞ私に感謝してください」といった自己主張の強さが日本人的性向と相容れないためであろう。

また、「～てあげる」を上位者に使用するのは明らかに誤用であり、相手に不快感を与える可能性も高い。「～てあげる」との混同を避けるため、「～てさしあげる」の導入はあえてとりあげる必要はないのではなかろうか。実際に、多くの日本語教材では「～てさしあげる」はとりあげられておらず、謙譲語「お～する」が推奨されている。

この仮説検証で用いられた4問のうち3問で、Semester7のほうが正答率が高かった。特に25Bのように「～てもいいでしょうか」が選択肢に含まれていた場合、Semester5のほとんどが「～てあげる」に引っ張られていたにも関わらず、Semester7は正答を選んでいった。ここでもSemester7がコンテキストから判断する能力が高まっていることがわかる。

7.3 仮説3の検証

仮説3ではウチとソトの概念について検証したい。問題4、13、22B、27Cの4問が検証問題であるが、問題4、13のようなシンプルな問題は60%弱の正答率があり、ある程度のウチ・ソト概念が入っているようである。しかし、22B、27Cのよ

うな会話文で、登場人物が多く人間関係をとらえにくい問題は正答率が下がった。これはウチとソト以前に、コンテクストを読み切れないことが原因であろう。「あげる」「くれる」「もらう」がほぼ同程度の割合で選択されていたことからわかる。

7.4 仮説4の検証

仮説4では、25C「きのうの手紙、読んでいただけましたか」の正答率が特に低く、多くの学習者が「お読みになりましたか」を選んでいった。この場合、相手に依頼をしたことの確認であるため、尊敬語だけでは感謝の意が消えてしまう。特に日本語能力試験3級合格者にその傾向が見られた。敬語の概念が定着していくことで、授受表現の恩恵の概念が侵食されていく可能性がここでわかった。敬語導入時に授受表現を織り交ぜたトレーニングを行う必要がある。

仮説4検証問題は他の問題に比べ、正答率が高いものが多かった。特に「～ていただけませんか」「～てもらえませんか」等の依頼の表現はきちんと定着しており、尊敬語に侵食されてはいなかった。

したがって、仮説4に関しては、依頼を除いた授受表現が尊敬表現に取って代わられる可能性が高いと言えよう。

7.5 その他の傾向

7.5.1 「あげる」「くれる」「もらう」、どれがいちばん難しい？

何名かの学習者や教員にあげる、くれる、もらうの中でどれが一番やさしく、どれが

一番難しいかを尋ねたところ、ほぼ100%「くれる」が難しい、という答えだった。一方、一番やさしいのは「あげる」との答えが多く、「あげる」と「もらう」は同じぐらいとの答えもあった。

そこで、学習者、教員の印象とこのテスト結果を比べてみると、「あげる」の正答率は58.6%、「くれる」の正答率は50.6%、「もらう」の正答率は54.3%であり、学習者、教員の印象と同じ結果が出た。ただし、「あげる」の過剰使用に関する問題を「あげる」の正答率に含めると正答率は47.2%にまで落ちる。つまり、「あげる」は簡単な印象があるが、実際には誤った使われ方も非常に多いということがわかる。

7.5.2 待遇表現は難しい？

「さしあげる、やる、くださる、いただく」の問題と「あげる、くれる、もらう」の問題を比べてみた。その結果、「さしあげる、やる、くださる、いただく」に関する問題の正答率は51.4%、「あげる、くれる、もらう」の問題は51.2%と、ほとんど変わらなかった。したがって、語彙レベルでの難易度は同じであり、それぞれの尊敬、謙譲表現は定着していると考えてよいだろう。

問題1「寝る前にいつもむすめに本を読んでやります。」の正答率が多く大学の(特にSemester7で)非常に低い値を示していた。今回は「あげる」は誤用と判断したが、教材や参考書によってはたとえ目下であっても人に対して「やる」を使うのはぞんざいな印象があり、「あげる」を使う場合がある、との説明もあるため、「あげる」が完全に誤用であるかは研究者の間でも揺れている。授業中に「あげる」でも構わないとの解説

を入れる場合もあるが、それでも、Semester 5 と 7 の間に大差があるのは、教室での導入の影響だけではないだろう。また、待遇表現の視点から見た場合、特に男性の場合、上司の前で「子供を駅まで迎えに行っておくべきではないので、お先に失礼します」のように「あげる」を使用するのはやや違和感がある。語彙レベルの難易度は同じであったと上述したように、「やる」の概念自体はそれほど難しいことではないようである。ビジネス会話などでは「やる」の使用頻度が増えることもあるため、特にビジネス系の日本語の習得を目指す場合は、「人に～やる」の使用について初級段階で導入していても、学習者にとってはそれほどの負担にはならないだろう。

7.5.3 受け手と与え手が明示されていたほうがよくわかる？

日本語ではほとんどの場合、「わたし」は省略される。「わたし」以外でも文脈から判断できる場合、受け手、与え手のどちらか一方、あるいはその両方が省略される場合がある。そこで、受け手、与え手の両方が明示されている場合、どちらか一方が明示されている場合、どちらも明示されていない場合のどれがもっとも難しいかを検討してみた。その結果、順に 54.8%、54.9%、47.0%であった。つまり、どちらか一方が省略されていても特に影響はないということである。しかしこれは裏を返せば、どちらも明示されていても正答率はあがらないということであり、与え手が第 1 者であるか、第 3 者であるか、といった文法的なマーカ―が定着していない証拠であるとも言えよう。しかも、その文法的マーカ―は Semester が進むに従ってさらに忘れられていくようである。したがって、コンテキスト中心に判断する Semester 7 のほうがどちらも明示されている

場合の正答率が低い場合が多かった。

与え手、受け手がどちらも明示されていない場合の正答率はやや低い。登場人物の多さもあり、コンテキストの複雑さを生み出しているのであろう。

7.5.4 連体修飾は難しい？

Table28 連体修飾問題の正答率

		全体	Sem5	Sem7
10	妻はわたしが誕生日に買ってあげたスカートをはいています。	30.5	30.0	31.0
13	これはド二さんが弟にくれた本です。	57.8	62.9	52.8
14	田中さんが私の誕生日に買ってくれたくつはこれです	59.9	61.4	58.5
8	先生にいただいた辞書はたいへん使いやすいです。	64.5	67.9	61.3
9	先生がくださった辞書はたいへん使いやすいです。	43.3	37.9	48.6
12	あなたが送ってくれたりんご、とてもおいしかったです。	66.0	69.3	62.7
15	これはきのう友達から貸してもらった本です。	56.7	57.1	56.3
23C	先生が紹介してくださった人に会いました。	51.4	46.4	56.3

Table28 では連体修飾の問題でも、正答率の高いものと低いものに分かれた。問題9と12はほとんど同様の構文であるが、なぜ、このような差が生まれたのであろうか。この要因の可能性として「先生 = いただく」を連想してしまう可能性である。実は正答率が高かった問題の中に「先生 = いただく」が正答であるものが多い(問題7、23A、23B)。学習者は文の構造よりも使用頻度の高い単語同士を熟語のように結び付けてし

もう傾向があるのではないだろうか。この傾向は特に Semester5 に強いようである。授業中のドリルの際に同じ単語を使用することによってこの現象は生まれる。Semester7 になるとその印象が薄れ、やや点数が上がることから、授業中のドリルが要因である可能性が高い。

8 . まとめ

今回の調査で明らかになったことをまとめておく。

①対象格の助詞についての理解不足。

今回の調査では誤用の原因とは言えなかったが、正用を阻む要因のひとつである可能性は高い。授業中に対象格についてきちんと取り上げる必要があるだろう。

②「～てあげる」の過剰使用。

目上の人には使わないほうがいいことを導入時に、また謙譲語の導入時に確認したほうがよいだろう。

③登場人物の多い「ウチとソト」のトレーニング

特に親疎関係についての概念の導入とトレーニングの必要性があるだろう。

④尊敬語より授受表現が優先される

尊敬語の導入時、またはトレーニングの際に、授受表現の復習も交えた練習問題を行うことで、尊敬語による侵食を防げるのではないだろうか。

⑤受け手と与え手は授受表現のキーワード

第3者がどちらで第1者がどちらか、といった基本的なトレーニングをきちんと行う

ことで正答率が上がるだろう。特に Semester 7 では基本的文型を忘れていたので、時折、復習をしたほうがよいだろう。

9 . おわりに

今回の調査では Semester 5 から Semester 7 でほとんど習得が進んでいない大学が多いことが明らかになった。しかし、Semester 7 ではコンテキストを読み取る能力は進んでいることもわかった。上級生になればなるほど基本的な文型が落ちてしまうのは非常に残念なことである。今回は授受表現を取り上げたが、おそらく多くの基礎文型にこのような現象が見られるであろう。コンテキストの理解能力は確実にあがっているのだから、何らかの形で基礎的な文型のトレーニングを上級生に入れていけるよう、カリキュラムに工夫をこらすことによって、日本語能力のレベルアップを図ることができるのではないだろうか。

この調査では選択問題によるテストを行った。しかし、正誤の判断ができるからといって、自分で文を産出できるとは限らない。インドネシア語自身には補助動詞が表現されにくいこともあり、実際に授受表現が産出できるかどうかといった調査が今後必要とされるであろう。

最後になったが、本稿ではインドネシア語話者と日本語話者の共同研究でありながら、一度も全体ミーティングを開く余裕がなかった。そのため、インドネシア語文と日本語文が混濁していることや内容が重複している点についてお詫び申し上げたい。折を見て、インドネシア語版と日本語版に整理し発表する予定である。

Daftar Referensi

Hashimoto, Yoshiaki. 2001. Jujuyougen no Goyouron. *Gengo*. vol.30. No.5. Taishuukanshoten. pp. 46-47.

Hirano, Mayumi. 2003. Nihongo kyouiku ni okeru Jujuyougen ni tsuite-Chuugokugo bogo washa no Baai wo Chuushinni-. *Seishin josi daigaku daigakuin ronshuu* 25 pp.232-265

Ide, Risako., Imu, Yonchoru. 2001. Hito to Hito wo Tsunagu Mono: Naze Nihongo ni Jujudoushi ga Ooi no ka. *Gengo*. vol.30.No.5. Taishuukanshoten. pp. 42-45.

Inaguma, Miho. 2004. kankokujin nihongo gakushusha no juju hyougen no shuutoku nit suite-"morau"kei to "kureru"kei wo chushin ni-. *Forum of international Development Studies*, 26 pp.13-24

Kabatani, Hiroshi. 2001. Nihongokyouiku de Jujudoushi wo Dou Toraeruka. *Gengo*. vol. 30. No.5. Taishuukanshoten pp.52-53.

Nakahama, Yuuko., Kurihara, Yuka. 2006. Nihongo no Monogatari Kouchiku: Shiten wo Handansuru Koubunteki Tegakari no Saikou (Japanese Narratives: Clues to Determining Speaker's Viewpoint). *Gengo Bunka Ronshuu*. vol.27. No.2. pp.97-107

(<http://hdl.handle.net/2237/7855> ISSN: 0388-6824)

Yamada, Toshihiro. 2000. Nihongo ni Okeru Benefakutibu no Kijututeki Kenkyuu: Dai 1-kai Benefakutibu no Shiten no Ichi to Houkousei. *Nihongogaku*. vol.19. No.11. Meijishoin. pp.94-101.

- Yamamoto, Yuuko. 2002. “-tekureru” no Kinou ni Tsuite:Taijinchousetsu teki na Kinou ni Chuumoku shite. *Gengo to Bunka*. vol.3. Nagoya Daigaku Daigakuin Kokusai Gengobunka Kenkyuuka. pp.127-144. (<http://hdl.handle.net/2237/8197>)
- Yoshimura, Kimihiro. 2002.2008. *An Encyclopedic dictionary of Cognitive Linguistics (Ninchi Gengogaku Kiiwaado Jiten)*. Kenkyuusha.pp.98-99.